

○議長 十六番ノ修正説ハ十四番ノ賛成アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十五番 渡邊 洪基 前陳ノ説ヲ繼續スヘシ晝夜ノ別ナク「」文字ハ頗ル

不穩當ナリ是レ何時ニテモト云フノ意ナルヘシ蓋シ原文ノ直譯ニ

成ルモノ、如シト雖モ法文上ニハ多ク見サルノ字面ナレハ十六番

ノ之ヲ嫌フ亦理由ナシトセス但船舶ノ文字ヲ嫌フト雖モ是レ家屋

等モ同ク長ク湊ニアルヲ以テ何物カ潜伏スルヤモ測知スヘカラズ

出入ノ船舶トハ其質全ク別ナリ故ニ十六番ノ問題消滅セハ其前半

ノ説ノミヲ提出セントス

○六番 箕作 麟祥 本官ハ全ク問題ニ不同意ナリ晝夜ノ別ナクノ字ヲ本項

ニ加フルハ要用ナリ他ノ項ヲ見ルニ第一項ハ晝夜ニ關セサルコト

ナリ第二第三第四項等ハ之レアリト雖モ常有ノコトニシテ間斷ナ

キモノナレハ故ヲニ掲ルニ及ハス本項ノ爲ス所ハ法律ニ於テ最モ

議論アル所ナレハ特ニ此文字ヲ存セサレハ必ス紛議ヲ生スヘシ家

屋ハ家人ノ城壁ナリ豈許可ナクシテ之ニ入ルヘケンヤ夜故ナク人

家ニ入ル如キハ舊法ニ於テモ嚴制アリシモノナリ況ンヤ開明日進

ノ今日ニ於テヲヤ又船舶ノ事ハ三十五番ノ云フ如ク出入検査ノミ

ニシテ足ルモノニアラス出入ノ検査ハ他ノ檢疫停船ト一ナリ碇泊

ノ者ニハ立入り検査スルハ固ヨリ當然ナリ況ヤ又出入セスシテ長

ク駐在スルモノアルニ於テヲヤ

○三番 柴原 和 本官モ原案ヲ可トス晝夜ノ別ナクノ文字アルハ特ニ事

ノ急ヲ示スモノニシテ所謂限制ヲ立テサルモノナリ又船舶ノ文字

アルハ三十五番並ニ六番ノ説ノ如シ有名ナル大阪ノ蠟船ノ如キ冬

春ノ間舟ヲ家トシテ橋下ニ住スルカ如キモノアリ是レ家屋ト何ソ
擇ハンヤ

○三十五番 渡邊 洪基 本官ハ別ニ修正説ヲ出スヘシト言ヘリ然ルニ六番

ノ駁論其當ヲ得タルニ服セシヲ以テ現問題消滅スルモ之ヲ提出セ
サルヘシ因テ各位ニ謝ス

○番三番 渡元 正 十六番ノ問題ハ原案ノ要旨ヲ得サルモノナリ晝夜ノ

別ナクノ字ヲ特掲セシハ故ナク人家ニ立入ルコトハ法ノ許サ、ル所
ニシテ刑法第七十一二條ニ反スルモノナレハ必ス示サ、ルヘカ
ラス發議者ハ別ニ他項ニナキヲ以テ本項ニ要セスト云フ前項即チ
第五項ノ如キハ刑法第四百十七條ノ裏面ヲ云フモノナルモ該條ハ
晝夜ノ關係ナキモノナリ獨リ本項ハ表面刑法ニ背キ人權ニ關スル

ノ大ナルヲ以テ之ヲ明示セサルヘカラス又船舶ノ事ハ諸議官ノ駁
議ニ盡セリ實際戰地等ニテ盜賊兇漢ノ徒潜伏ニ便ナルハ船舶ナリ
故ニ之ヲ削ルトキハ賊ノ去就モ知ルニ由ナキニ至ラン

○三十六番 津田 眞道 吾人ノ家屋ハ城壁ナリ誠ニ然リ舊新刑法等ニ皆之
アリ故ニ特許ナクンハ叨ニ人家ニ入ルヘカラス六番及番外三番ノ
説可ナリ簡ナリ故ニ本官モ問題ニ不同意ナリ

○十六番 神田 孝平 多ク駁撃ヲ受ケタリト雖モ臨戰地モ亦平時ト同シカ
ラス日夜ヲ問ハサルコトアラン故ニ本官ハ一言以テ之ニ答ヘン晝
夜ノ別ナクノ六字ヲ删除スルモ決シテ反對者ノ云フ如キ差支ナシ
ト

○二十番 三浦 安 問題者ハ前項ノ檢査ト本項ノ立入り檢察トヲ辨別セ

○サルモノニ似タリ前項ノ検査ハ主人持主ノ承諾ノ上ニテ成スコトアルモ合圍地ノ檢察ハ至當ノ順序ナシ故ニ立入り檢察スルコトシ案内ナクシテ立入ルコトヲ許スモノナリ之ヲ臨戰ノコト、同視スルハ不可ナリ

○三十四番長岡護美 各位充分ノ討論アレハ必ス本案ニ決スルナランニ

十番モ云フ如ク法案ハ能ク時ノ事實ト處ノ場合トヲ考察セサルヘカラス立入ノ文字ヲ晝夜ノ別ナクト對讀シテ注意スヘシ

○議長 發議悉ルヲ以テ決ヲ取ラン十六番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ十六番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記書森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第七 合圍地境内ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○十五番伊丹重賢 豫陳セシ如ク本官ハ此處ニ第十五條ヲ新置セントス其理由モ亦己ニ陳述セシ如ク必ス賠償セサルノ精神ナレハ之ヲ示

サ、ルヘカラス若シ賠償スルコト、セハ大ニ人民ノ氣勢ヲ加ヘ要
 償ヲ訴出ル實ニ底止スル所ヲ知ラサルヘシ賠償ハ必ス爲スヘカラ
 ス之ヲ爲サ、レハ必ス其事ヲ知ラシメサルヘカラス只第十四條第
 五項ニ之ヲ削リシハ場所ノ當ヲ得サルカ爲メナリ仍テ茲ニ第十五
 條前條各項ノ執行ヲ受ケタルモノハ賠償スルノ限ニアラストノ一
 條ヲ加ヘントス或論者ハ戰ハ危事暴行ナレハ若シ賠償セサルコト
 、セハ軍人勢ニ乘シテ人民ヲ害スルコト多カルヘシト云フモ此ノ
 如キハ別ニ處分ノ方法アルヘキニ依リ本官ハ餘波ヲ以テ大源ヲ塞
 クヲ欲セサルナリ

○三十一番西 十五番ノ說ハ修正委員ノ論ナリ若シ戰亂ノ兵燹ニ罹
 ルモノヲモ賠償スルトセハ一朝事アルヤ訴者陸續輩出スルヲ以テ

之ニ賠償セサルハ當然ノ理ナリ然レトモ法文之ヲ掲ケサレハ讀者
 ノ疑ヲ生シ事ニ臨テ出ルモノアルヤ必セリ然レトモ修正案ノ如ク
 第十四條第五項ニ但書トスルトキハ其第四項等ノ如キハ損害ヲ要
 償スルヲ得ヘキコト、ナリ不都合ナルニ依リ彼ヲ刪リテ此ニ加ヘ
 以テ全體ヲ包括セシムルナリ十五番ノ說ヲ賛成ス

○議長 十五番ノ動議ハ三十一番ノ賛成アルヲ以テ問題ト爲ス

○三番柴原和 既ニ陳セシ如ク此問題ハ不同意ナリ之ヲ加フルヤ人民
 却テ怪疑ヲ生スヘシ夫レ本令ハ戒嚴令ナリ通常人民ノ私産ヲ破壊
 スルハ固ヨリ嚴制アリト雖モ獨リ非常ノ時ニ當リテ之ヲ許スハ當
 然ノコトナレハ人民亦止ムヲ得サルコト、シテ之ヲ承諾セリ若シ
 特ニ之ヲ掲クルトキハ奇異ノ感ヲ爲シ嫌忌ノ念ヲ生シ夙ニ諸具ヲ

持出シ軍用ノ不便ヲ爲スノ果ヲ生センコトヲ恐ル本官ハ未タ王師
ノ爲メニ兵火ニ罹ルモノ、強テ其賠償ヲ求メシヲ聞カス且ヤ反對
論者ハ之ヲ明示スルヲ可ナリト云フモ賠償セサルコトアリトセハ
軍人ハ之ニ乘シテ亂妨狼藉ヲ逞ウスル亦期スヘカラス已ニ内閣委
員ニシテ之ヲ賠償セサルノ精神ナリト言フニアラスヤ是レ固ヨリ
當然ナリ然レハ故ヲニ之ヲ掲ケテ人心ノ怪疑ヲ加ヘ軍人ノ暴威ヲ
長スルニ及ハサルナリ若シ人民嫌忌ヲ抱キ其別ニ手當アルモ計ヲ
ス本令アルカ爲メニ早ク荷擔シテ走逃スルカ如クンハ軍略上ニ於
テモ大ニ差支アラシ是レ原案ヲ可トスル所以ナリ

○十五番 伊丹重賢

三番ノ反對論旨トスル所ハ之ヲ掲クレバ人民荷擔シ
テ走り軍人暴威ヲ增長スト云フニアリ固ヨリ必要大切ナル物品ナ

レハ之ヲ持出スハ尤ムヘキコトニアラス斯ル旨趣ヲ以テ論スルハ
當ラサルナリ畢竟賠償セサルノ主意ナリト云ヘハ其主意ヲ示シ人
民ヲシテ覺悟セシムルニ如カサルナリ熊本ノ亂ノ如キ論者ハ賠償
ヲ求ムルモノアリシヲ聞カスト云フモ本官ハ之ニ反シ往々苦情ヲ
訴フルモノアルヲ聞ケリ是レ固ヨリ條理ヲ知ラサルモノト云フト
雖モ苟モ法ニ明文ナケレハ之ヲ説諭スルニモ其道ナク之ヲ審判ス
ルニモ其法ナキヲ如何セン

○三十六番 津田真道

問題ノ如ク之ヲ掲ルハ素ヨリ忍ヒサル所ナリト雖
モ亦止ムヲ得サルモノアリテ存スルナリ前刻以來議場ノ景況ヲ察
スルニ反對黨多ク問題ノ成立ハ期シ難キニ似タルモ亦言ハサルヘ
カラサルモノアリ平時ニハ公共ノ爲メ人民ノ私有ヲ動スコトアレ

ハ充分賠償ヲ與ヘ其承諾ヲ經テ後ニスルヲ例トス是レ當然ノコトナリト雖モ戰時ニ於テハ軍畧上攻守防戰ノ爲メ或ハ人家ヲ燒キ物品ヲ毀ツカ如キ實ニ己ムヲ得サルハ近時熊本鎮台ノ籠城其適例ナリ是レ反對論者モ止ムヲ得サレハ賠償ノ限ニアラストスルモノナラン然ラハ則チ之ヲ明揭シテ人民ニ覺悟セシムルヲ可トスヘキニアラスヤ蓋シ法律ノ入用ナルハ此等ノ爲メナリ掲ケスシテ分明ナリトスレハ何物カ不分明ナルモノアラシヤ之ヲ掲クレハ兵隊亂妨ストノ説アレトモ是レ取ルニ足ラサルノ言ナリ既ニ陸海軍ノ刑法アリ之ヲ處刑スル固ヨリ其所ニシテ軍衙ニ裁判權ヲ與ルハ全ク之カ爲メナラスヤ堂々タル議官ニシテ此言アルハ實ニ歎息ニ堪ヘサルナリ夫レ分取功名ハ古ノ事ナリ今日ノ兵制ニシテ誰カ良民ヲ困

シムコトヲ許スモノアラシヤ又人民用意シテ物品ヲ持出シ軍略上ニ差支アリトシテ問題ヲ駁スルモノアリ本官聞テ此ニ至リ更ニ歎息ヲ加ヘサルヲ得ス何トナレハ此ノ如キハ如何ニモ法文ニ明記シテ亂時ニ際セハ早ク人民ヲシテ物品ヲ纏メシムルノ可ナルヲ以テナリ漠然之ヲ知ラシメス戰亂ノ中ニ空ク焦土トスルハ最モ慘狀ヲ極ムルモノト云フヘシ之ヲ存置シテ焦土ト爲シ戰畧上何ノ差支アルヤ本官ハ其說理ナキヲ驚クノ外ナキナリ

○十四番 渡邊清

本官ハ問題ニ同意スル能ハス若シ之ヲ掲クルハ數多ノ害アリ第一戒嚴地内ノ人民ヲ迷惑セシメ第二盜賊ノ流行スルニ至ルナリ何トナレハ戰爭ノ起ルヤ之カ人足等ニ競進スルモノハ多クハ無賴ノ貧民ニシテ一朝巨利ヲ博セントスルモノナレハ耳目

ヲ此ニ注着スルハ必然ナルヲ以テ本令ニ賠償セサルコトノ明文アルヲ機トシ爲メニ窃盜心ヲ生シ良民ノ私産ヲ私スルカ如キハ更ニ増長スルハ期シテ待ツヘキヲ以テナリ且ヤ軍人ト雖モ戰ニ依テハ鎮台兵ニ限ラス故ニ其暴慾ヲ制スル亦節度ノ行届カサルヲ保セス爲メニ軍畧ヲ誤リ軍衙ヲ煩ハスノ手數多キヲ加フルノ恐レアリ況ヤ人民ニ至リテハ愛國心アレハ其損害ヲ受クルハ固ヨリ甘スヘキモ爲メニ他ノ妨害ヲ蒙ムルニ堪ヘサルヲヤ或論者ハ教ヘスシテ損セシムト云フト雖モ教ヘテ其害ヲ増加スルト孰與ソヤ本官ハ賠償手當等ノコトハ一切言ハサルノ妙味アルニ如カストスルナリ

○三十六番 津田眞通

十四番ノ說理ハ明治以前法律ヲ秘密ニセシ精神ヨリ來ルモノ、如シ舊幕ノ百箇條ノ如キハ裁判官ノ外知ルヲ得サル

モノナリシカ維新以來刑法ハ一般ニ告知シ其他百般ノ法律ヲ明示セル今日ニ當リ又此主義ヲ持來ルハ何ソヤ日本ノ黔首ハ尙或ハ愚ニスルヲ得ヘキモ外國交際アル時代ナレハ或ハ戰地ニ於テ其舟行ヲ停止スルコトノ如キ亦之ナキヲ期セス然ルニ法ニ明文ナキヲ以テ外國人ノ要償アレハ之ヲ謝斷スルニ辭ナカルヘシ旣ニ奧羽戰爭ノ時ニハ其要償ニ應シタルコトアルハ夫ノ山口惣兵衛ノ嘆願書中ニモ之ヲ引用セリ故ニ外國人ニ賠償スレハ勢ヒ内國人ニモ一ニセサルヘカラス内外法ヲ殊ニスルハ最モ愧ツヘキノ至ナリ方今ノ時勢タルヤ治外法權ヲ破リ外國ヲシテ我ニ服セシメントシ未タ斷行スル能ハサルニアラスヤ是レ啻ニ刑法治罪法ニ限ラス百般ノ法律未タ公明正大ナラサルニ由レリ故ニ本案ノ如キモ公明正大ニ賠

償セサルコトヲ掲ケ内外畫一ノ法トセサルヘカラス内國人ハ或ハ
秘密主義ヲ以テ壓スルヲ得ルモ支那朝鮮ハ姑ラク措キ歐米諸洲ノ
外國人ヲハ決シテ壓スル能ハサルナリ

○三十五番洪基 三十六番ノ外國人ヲ引テ論據トスルモノハ或ハ各
位ノ感覺ヲ動カスヲ恐ル、ニ依リ本官ノ意見ヲ述ヘン縱ヒ法律ニ
明文ナシト雖モ條理明確事實善美ナルモノハ外國人ト雖モ不同意
ナルノ理由アラズ本案ニ之ヲ掲ケサルハ即チ是レナリ例ヘハ消防
人足火事アルニ際シ火元近所ノ家屋ヲ毀害スルカ如シ被害者之ニ
對シテ要償スルモノナキハ何ソヤ其社會ノ大患ヲ除カンカ爲メニ
之ヲ爲スモノナレハナリ往年奧羽征討ノ後外國人ニ賠償セシコト
アルハ政府爲サ、ルモ可ナルノ事ヲ爲シタルモノニシテ三十六番

ノ言ノ如ク實ハ之ヲ恐レタルニ依レリ故ニ之ヲ例証スヘカラサル
ナリ西南事件ノ時モ長崎ニ在テ稍之ニ關セシコトアリシモ本官等
論シテ之ヲ問ハサリシナリ然レモ或場合ニ於テハ内外人ヲ問ハス
之ヲ償ハサルヲ得サルコトアラン此際ニ方リテハ別ニ法衙ヲ開テ
其是非ヲ斷セサルヘカラス本官ノ前ニ米國南北戰爭ノコトヲ引用
セシハ之カ爲メナリ此ノ如キコトアリ特ニ定示スルハ尙不可ナリ
○番一山口 問題ハ肝要ノ事件ナルヲ以テ原案ノ精神ヲ述ヘ各位
ノ参考ニ供セントス抑々本令ハ陸軍省ノ上申ニ成ルモノニシテ該
上申中ニハ賠償セサルノ明文ヲ掲ケシヲ内閣ニ於テ删除シタルナ
リ其理由ハ各條ヲ流通ナラシメ此事ハ別ニ之ヲ爲サントノ主意ナ
レハナリ米利堅獨乙其他各國ノ憲法皆之ヲ明カニセリ故ニ他ニ補

フ所アラシメントスルナリ若シ之ヲ全ク掲ケサルニ置ケハ法ニ正
條ナキモノニシテ法官モ其處分ニ苦シムヘシ或議官ハ十年西南ノ
役ニ於テモ人民ノ要償スルモノナシト云フ決シテ然ラス陸續繼起
シテ陸軍省等ニ於テハ大ニ心配スル所ナリ故ニ唯賠償セサルコト
明ナレハ揭示セスシテ可ナリト云フカ如キノ精神ニアラサルナリ

退席

十七番

楠本 正隆

○三番柴原和 本官ハ原案ヲ賛成スルモノナリ然ルニ番外一番ハ之ヲ
主持スルノ任ヲ以テ却テ其精神ノ異同ヲ説キ宛モ修正説ノ行ハル
、ヲ希望スルカ如キハ何ソヤ因テ本官ハ更ニ其眞意ヲ問ハントス
○議長 番外三番ニ問フ修正案ハ曾テ内閣ヘモ廻致セシカ聞ク所ニ
依レハ第十五條修正ノ外異議ナシト云フ果シテ然ルカ然ラハ目下

問題タル賠償ノコトハ明記スルモ異存ナキカ今番外一番ノ云フ所
ノ如クンハ三番ノ疑アルモ至當ナルカ如シ詳カニ其同否ヲ聞カン
○外三番渡元 本案全部附託ノ修正委員ヲ選定セラレシトキ内閣委
員モ其會席ニ列シテ相協議セリ當時ハ之ヲ掲ケサルモ賠償セサル
ハ論ヲ俟ストノ意ヲ述ヘシカ内閣ハ修正案ヲ以テ原案ノ主旨ヲ破
ラサルモノナレハ異論ハアルノ理ナシ獨リ第八條ヨリ關係シ第十
五條ヲ修正スル點ニ至テハ意議ヲ別ニスルニ依リ異見アリシ是レ
本員モ該條ニ至テ述ヘントスル所ナリ餘ハ大體ニ關セサレハ論ナ
キヲ以テ賠償ノコトヲ掲ルモ亦異論ナキナリ蓋シ必ス賠償スルコ
ト、セハ國庫ヲ傾ルモ充ツヘカラサレハナリ故ニ原案ハ掲ケサル
モ不可ナシ當然ノコトナリト斷定セシノミ然レハ之ヲ掲クルモ異

存ナキノ理由ヲ以テ本員ハ之ニ對シテ沈黙セシナリ

○議長 三番ニ告ク修正案ニテ差支ノコトアレハ其旨ヲ返報スヘシ

ト念ノ爲メニ添申セシニ何ノ返詞ナシ然レハ内閣委員ノ所謂第十

五條ノ外ハ内閣ニテモ別ニ存意ナシト信スルナリ

○六番笑作 本官ハ問題ニ不同意ナリ番外一番ハ之ヲ可トスルカ如

クシテ各國憲法ヲ引証スト雖モ以テ本令ニ應用スヘカラス夫レ故

ナクシテ他人ノ物品ヲ取ルノ理ナシト雖モ天災地變ニ依テ奪去セ

ラル、ハ是レ將タ誰ニ向テ訴ヘンヤ戰爭ハ人事ナリト雖モ己ムヲ

得サルノ情勢ニ依テ起ルモノナレハ之カ爲メニ生スルモノハ亦天

地ノ災變ニ逢フト一般ニ取扱ヲ爲サルヘカラス論者ハ法律ニ掲

ケサレハ要償ヲ求ムルモノヲ處スルノ道ナシト云フ如何ニモ刑法

第二條ニ法律ニ正條ナキモノハ問ハサルコトアリ舊刑法ノ如キ不

應爲律ナルモノアレハ此疑モ免レサルヘシト雖モ今日己ニ之ヲ廢

セリ畢竟此ノ如キハ皆刑法ニ關スルコトナリ何ソ疑懼スルニ及ハ

ンヤ然ラハ則チ明文ナキモ何ソ痛マンヤ之ヲ是レ痛論スルトキハ

羅馬古律モ尙足ラサルヲ恐ルヘシ他ノ司法省ノ達ニ法ニ正條ナキ

モノハ慣習ニ依リ慣習ナキモノハ條理ニ依ルヘシトアリ合圍地内

等ニ於テハ人民ノ財産ヲ己ムヲ得サルニ毀害スルハ理ニ於テ不可

ナシ如何ソ之ヲ訴フルノ要償ヲ慣習若クハ條理アリトシテ受理ス

ルモノアラシヤ掲ケスシテ可ナリ

○三番柴原和 本官疑ヲ番外一番ニ質セシニ議長ノ注意ニ依テ止メラ

ル蓋シ番外一番ハ問題ヲ可トシ修正案ハ原案ノ闕所ヲ補フモノト

スルカ如シ是レ内閣委員ノ資格ニアラス番外一番一己ノ見ナルヘ
シ一己ノ見ヲ以テスレハ本官ハ依然原案ヲ可トシ番外三番ノ説明
ニ依テ益々其精神ヲ賛成ス何トナレハ之ヲ掲クレハ本令第十四條
ノ諸項ニ限り賠償セサルヤノ嫌アリ則チ夫ノ西南ノ役ノ如キ紙幣
ヲ贋造シテ良民ヲ損セシメ其他強奪剽掠ノ所爲ノ如キハ枚擧ニ違
アラズ本案ニ於テハ是等一々罰スル能ハス却テ其損亡ハ償フヲ得
ルヤノ疑アルヲ以テ此諸項ニ限り之ヲ掲クルハ不可ナリ

○二十番 三浦安 六番ハ我言ハント欲スル所ヲ云ヘリ元來戰爭ノ起ル
ヤ政府求メテ爲スモノニアラス人民好テ起ス者ニアラス實ニ國家
ノ安寧ヲ計リ百般ノ法令ヲ施スノ間ニ方リ意外ノ差違レヨリ突起
スルモノナレハ之ヲ天災地妖ト同シク不時ノモノトスルハ至當ノ

論ト云ハサルヘカラス故ニ政府ノ戒嚴ヲ爲シ之ヲ平定スルハ國民
保護ノ爲メ此災異ヲ防クモノナレハ之カ爲メニ損スルモノアルハ
亦義務トシテ黙從セサルヘカラス故ニ天災地妖ト同シク賠償ノ限
ニアラストシ故ラニ之ヲ云フニ及ハサルナリ

○五番 鍋島幹 本官ハ問題ヲ可トス反對論者ハ之ヲ掲ルトキハ人民戒
嚴地内ニ在ルヲ厭ヒ又兵士亂妨スト云フ果シテ然ラハ之ヲ掲ケサ
レハ人民之ヲ厭ハサルカ兵隊亂妨セサルカ決シテ然ラサルナリ抑
々兵ヲ整肅スルハ將校ノ任ナリ豈賠償ノ有無ヲ以テ之ヲ整備スヘ
ケンヤ況ヤ人民ノ如キ均ク之ヲ厭フモノナレハ豫メ示シテ覺悟用
意スルニ如カサルヲヤ蓋シ人家ヲ毀壞スルハ萬々己ムヲ得サルコ
トトスルモ其他家産ノ類ハ成ルヘク注意シテ早ク運搬ヲ計ラシム

ルハ急遽ノ時ト雖モ素ヨリ政府當務ノコトナリ又天災地妖ヲ引用
シ條理ニ於テ掲ケサルモ可ナリト云フモノアリ若シ條理ナレハ掲
ケスト云ヘハ法律ニ示スモノハ皆不條理ノコトナルカ決シテ然ラ
サルヘシ況ヤ天災地妖ト雖モ尙地方官ヲシテ注意セシムルアリ將
校ノ注意ヲ豫示スル亦不都合ノコトニアラス故ニ條理論モ亦不條
理ノ論タルヲ免レサルナリ

○十五番 伊丹重賢 反對者中天災地變ヲ引証シテ賠償ノコトヲ掲クルヲ
不可トスルモノアリ然レトモ雷震ノ爲メニ家ヲ燒崩セラル、モノ
ト戰爭ニ依テ受ル所ノ損害トハ人民ノ感觸決シテ同シカラサルナ
リ故ニ之ヲ示シテ人民ヲ覺悟セシムルノ可ナルニ如カス縱令之ヲ
天地ノ變ト一視スルモ掲ケサルノ論據トスルニ足ラサルナリ

○十六番 神田孝平 議論兩岐ニ涉レリ然レトモ其主旨ハ皆賠償ヲ爲サ、
ルニ在リ之ヲ擇フニ於テハ高尚ノ論ニ從ハンカ簡明ノ説ヲ取ラン
カ本官ハ寧ロ簡明ナルモノヲ取ラン何トナレハ均シク賠償セサル
ノ精神ナレハ寧ロ明カニ賠償セサルコトヲ揭示スルノ勝レルニ如
カサレハナリ故ニ問題ハ原案ノ精神ヲ明カニスルヲ以テ可ナリト
ス

○三十六番 津田具道 反對論者ニ一言セン

○議長 問題ハ勿論三十番賛成ノ旨趣モ充分議場ニ徹底スルカ如シ
故ニ尙陳述スルコトアレハ簡單ニ述フヘシ

○三十六番 津田具道 既ニ旨趣ヲ陳スル詳細ナリ此上別ニ名説アルニア
ラス故ニ議長ノ忠告ニ從ヒ議論セサルヘシ

○議長 議發議盡タルヲ以テ決ヲ取ラシ十五番ノ修正説ニ同意者ハ起

○立スヘシ 起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ修正説ハ消滅シ即チ次條ニ移ルヘ

○第十六番 書記官

○第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クル

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告

日迄ハ其効力ヲ有スル者トス

○六番 箕作 麟祥 本條ハ原案ニ復スヘシ宣告ノ字ヲ刪ルハ不可ナリ何ト

ナレハ戒嚴地内ニ在ルトキハ其地人民ハ窮屈ニシテ安心シ難キヲ

以テ戰爭平定セハ成ルヘク速カニ之ヲ解止スルハ實ニ人民ノ爲メ

ナレハナリ然レハ則チ之ヲ大政府ニ通シ徐ク布告ヲ爲スヲ待タン

ヨリハ寧ロ司令官即時ニ之ヲ解止スルノ便ナルニ如カス況ヤ既ニ

之ヲ爲スノ權アレハ之ヲ解ク權ハ隨テ之アルヘキハ當然ノ理ナル

ニ於テヲヤ上帝ハ世界ヲ造ル故ニ之ヲ毀ツノ權アリ政府ハ律法ヲ

作ル故ニ之ヲ廢スルノ權アリ司令官ハ戒嚴ヲ宣告ス豈之ヲ解止ス

ルノ權ナカラシヤ是レ修正ノ理由ナリ

○五番 鍋島 贊成

○二十番 三浦 安 贊成ス六番ノ上帝ノコトヲ引証スルハ奇怪ナルヲ以

テ同意シ難キモ既ニ第八條ニ於テ區畫ヲ改定スルノ權ヲ與フル以

上ハ其解止ノ權ヲ司令官ニ許スハ其中ニ明ニシテ原案ノ如クスル

ハ當然ノ理ナリ人民ヲシテ一日モ速ニ安心セシメント云フハ最モ

可ナリトス

○三番柴原和賛成

○三十五番渡邊洪基賛成

○三十二番野村素介賛成

○議長 六番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十五番伊丹重賢 本條修正ノ理由ハ第八條議定ノ時既ニ陳述セリ下付

原案ノ如クシテハ讀者見解ヲ誤ルノミナラス内閣委員カ第五條ノ意味ニ就キ時機切迫ト通信斷絶トハ一事ナリトスルノ理由即チ司令官ノ權限ハ成ルヘク與ヘスト云フノ主旨ニ反スルヲ以テ本官等ハ解止ノ如キハ危急ノ憂ナケレハ徐ク布告スルモ人民ノ迷惑セサルヲ信シ此ノ如クセシナリ

○外三番渡正元 十五番ハ第八條ナル改定ノ文字ヲ誤解シ本條ノ修正

モ亦本案ノ如クスト雖モ既ニ宣告ハ布告ヲモ改更スルノ効力アル者ナレハ其之ヲ解止スルノ權力モ亦異同ナキノ理ナリ故ニ宣告ノミヲ許サルハ前後輕重ノ衡ヲ失シ甚タ不可ナリ六番ノ説ノ如クナランコトヲ欲ス

○議長 發議盡クト認ム六番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ六番ノ修正説ニ決ス

書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政及事務司法及ヒ裁判權ノ事務ハ總テ其常

例ニ復ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラシ第十六條本案ニ同意者ハ起立ス
ヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ第二讀會ハ茲ニ畢ル

○外番一番山山口 別段ニ請求セントス今ヤ第二讀會ヲ畢ラレシニ時已

ニ六時ヲ過ク各位ノ勞固ヨリ察セサルニアラスト雖モ聞ク所ニ依

レハ本院モ明日ヨリ暑中休暇セラルト云ヘリ本案實ニ急施ヲ要ス

ルモノナリ而シテ第二讀會ニ於テ充分討議アル上ハ大ニ修正モア

ラサルヘシ本官曾テ本院ニ奉職ノ際第二讀會ヲ了リ朗讀ヲ省キ直

ニ第三讀會ニ移ルコトアリ本案希クハ此例ニ依リ直ニ第三讀會ヲ

開カレンコトヲ乞フ

○議長 番外一番ノ言ノ如ク本院ハ明日ヨリ休暇ナレハ其請求ナキ
モ今日直ニ第三讀會ヲ開クノ意ナリ然レトモ第七條第十四條第十
五條等ノ修正アリ尙問題許多アリシヲ以テ晚餐後ニ開議セントス
但番外一番ノ請求アレハ一應衆議ニ問ン

○三十五番渡邊 本官ハ第三讀會ニ方リ二箇ノ修正意見アルナリ

○議長 三十五番ノ如ク尙他議官ニモ説アルヘシ由テ一旦散會セン

○三番柴原 本官モ修正アレトモ直ニ開クモ大ニ差支ナシト信ス

○議長 三番ノ議アレトモ諸説多キヲ期セサレハ一應散會スヘシ

午後第六時三十分閉場

午後第六時五十分開場

退席

廿八番

四條 隆誥

○議長 東久世通禧

副議長ハ所勞ニ依リ退院セシニ付キ本官本席ヲ保チ

第三百三十五號議案ノ第三讀會ヲ開ク

○三十六番 津田真道

第二讀會ノ畢リタルハ前刻ニアレハ修正ノ箇所モ

亦皆記スヘキヲ以テ朗讀ヲ省キ連帶シテ議ニ附セラレンコトヲ建

議ス

○議長 三十六番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルニ依リ三十六番ノ建議ニ決シ各條連帶シテ議ニ付

ス

○二十番 三浦安

朗讀ハ省クト雖モ條名ノミハ朗讀スルカ

○議長 全ク朗讀セサルナリ

○三十五番 渡邊洪基

第三讀會ニ方リ二箇ノ修正說ヲ連帶シテ提出セン

第二讀會ノ節十九番ノ文字ノ揃ハサルヲ以テ第三條以下ニアル地

境ノ「境」字ヲ省略シ第二條ニ同ウセント云ヘリ今本官ハ之ニ反シ

各條皆境ノ字アルヲ以テ第二條ナル臨戰地ト合圍地トノ兩ノ地ノ

字ノ下ニ境ノ一字ヲ加ヘントス其理由ハ十九番ノ言ニ同ウシテ之

ヲ揃ハシムルニハ寧ロ加フルヲ可トスルナリ又第三條ナル「太政大

臣」ノ字ハ前會以來痛論セシカ如キ理由アレハ之ヲ刪除セントス

○議長 連帶議ニ付スルモ問題ハ一々別ニ出スヘシ

○三十五番 渡邊洪基

二分シテ決ヲ取ラレンコトヲ乞フ

○議長 先ツ一修正ヲ出スヘシ

○三十五番 渡邊 洪基 然レハ目下説ク所ノ第二條ノ修正説ヲ提出スヘシ

○三番 柴原 和 三十五番ノ修正ハ兩ナカラ可ナリ今其一ヲ提出セリ之

ヲ賛成ス

○二十番 三浦 安 賛成セントスルモ連帶シテ出スハ可ナルカ

○議長 動議アラハ出シテ可ナリ

○二十番 三浦 安 三十五番ノ修正説ヲ賛成ス

○十七番 鍋島 直彬 賛成ス既ニ本官ノ境字ヲ削ル議行ハレサル以上ハ其

備ランコトヲ求メンニハ三十五番ノ説ノ如クナラサルヘカラサレ

ハナリ

○三十三番 林友 幸 賛成

○三十四番 長岡 謙美 賛成

○議長 三十五番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 他ニ發議ナシ三十五番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ三十五番ノ修正説ニ決ス

○三十五番 渡邊 洪基 即チ第三條ナル太政大臣ノ四字ヲ删除スルノ修正

○説ヲ提出ス

○二十番 三浦 安 賛成ス主務卿ノ連署モナク太政大臣ノ爲スコト明ナ

○レハ猶更省キテ差支ナシ

○三番 柴原 和 賛成ス己ニ第七條ノ朱書モ削レリ本條ニモ存スルニ及

○ハス

○六番 箕作 祥 賛成ス其主旨ハ前會ニ陳ルモノニ異ナラサルナリ

○三十六番 津田 眞道 賛成

○三十三番 林友 幸 賛成

○議長 三十五番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 他ニ發議ナシ三十五番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者九人

○議長 多數ナルヲ以テ三十五番ノ修正説ニ決ス

○議長 他ニ發議ナケレハ決ヲ取ラン本案全體ニ同意者ハ起立スヘ

○議長 起立者九人

全員起立二人

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ修正ノ箇條ハ例ニ遵ヒ理由

ヲ具シテ上奏セン散會スヘシ

午後第七時閉場

元老院會議筆記明治十五年七月一日

○第三百三十六號議案 日本銀行條例修正案第十條第三項中刪除ノ儀 檢視會開會前議官席次ノ

番號ヲ
抽籤ス

議長代理
佐野常民

出席議官

- | | |
|----|-------|
| 三番 | 柴原和 |
| 五番 | 鍋島幹 |
| 六番 | 箕作麟祥 |
| 七番 | 海江田信義 |
| 八番 | 稅所篤 |
| 九番 | 細川潤次郎 |

- 十一番 津田 大出
- 十二番 大久保一翁
- 十三番 本田 親雄
- 十五番 伊丹 重賢
- 十六番 神田 孝平
- 十八番 東久世通禮
- 二十番 三浦 安
- 廿四番 黒田 清綱
- 廿五番 大給 恒
- 廿六番 榎村 正直
- 廿七番 伊集院兼寛

- 廿九番 關口 隆吉
- 三十番 楠田 英世
- 三十一番 西 周
- 三十二番 野村 素介
- 三十三番 林 友幸
- 三十四番 長岡 護美
- 三十五番 渡邊 洪基
- 三十六番 津田 眞道

午前第十時開場

○議長 議長ノ病痾未タ瘉エサルヲ以テ本官代理ヲ爲シ第三百三十
六號議案ノ檢視會ヲ開ク但本案ハ太政大臣ノ通牒書ニ載スルカ如

ク向日本院ニ於テ議定上奏シタル日本銀行條例第十一條第三項中
金銀塊ノ三字ヲ删除シタルニ過キサレハ朗讀ハ通牒文ト該項ノミ
ニ止メン各位之ヲ領シテ例ニ依テ檢視スヘシ

書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

本月二十一日其院議定上奏相成候日本銀行條例修正案第十一條第
三項中金銀塊ノ三字ヲ删除シ別紙ノ通便宜布告ノ後其院檢視ニ被
付候事

明治十五年六月二十七日

太政大臣三條實美

元老院議長寺島宗則殿

第十一條

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

左案ハ議場ニ於テ朗讀ナカリシ者ナレトモ閱覽ノ便ニ供スル

カ爲メ附録ス

第三十二號

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條

日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ
義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條

日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンデンス」ヲ締約スルキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條

日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條

日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓

トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條

日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條

日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クベシ

第七條

資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條

營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ

其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其缺額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條

事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條

純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條

日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 朗讀ノ部ニ載ス就テ看ルヘシ

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬并諸證券類ノ保護預ヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額

及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大
藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條

日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其
他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲
ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲
ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關
係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不
動産ノ所有主タル事

第十三條

政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘ
シ

第十四條

日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セ
シムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條

日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條

日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條

日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條

總裁副總裁ハ任期五箇年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條

理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五箇年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於

テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第二十條

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十一條

大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條

日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ

第二十三條

日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受ク

ヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條

政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條

此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三箇月以前ニ之ヲ布告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

太政大臣三條實美

大藏卿 松方正義

明治十五年六月廿七日

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ヲ備明ナリト思考スル者ハ起立スヘシ

起立者廿四人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ハ異議ナク檢視ヲ經過シタル旨ヲ具シ例ニ循ヒ上奏スヘシ

本會訖テ後第三百三十四號議案ノ第一讀會ヲ開ク

元老院會議筆記明治十五年七月二十日

○第三百三十七號議案 沖繩縣管内重檢視會
罪犯處分ノ備

議長代理
佐野常民

出席議員

- | | | |
|-----|-----|----|
| 三番 | 柴原 | 和 |
| 五番 | 鍋島 | 幹 |
| 六番 | 箕作 | 麟祥 |
| 十二番 | 大久保 | 一翁 |
| 十三番 | 本田 | 親雄 |
| 十四番 | 渡邊 | 清 |
| 十六番 | 神田 | 孝平 |

午前第十時十五分開場

- 十八番 東久世通禧
- 二十番 三浦 安
- 廿三番 岩下 方平
- 廿六番 榎村 正直
- 三十番 楠田 英世
- 卅二番 野村 素介
- 卅三番 林 友幸
- 卅四番 長岡 護美
- 卅五番 渡邊 洪基
- 卅六番 津田 眞道

○議長 第三百三十七號議案檢視會及第三百二十號議案第二讀會ヲ
開ク

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第三拾三號

明治十四年^{十二月}第七拾八號ヲ以テ重罪裁判所管轄區畫布告候處沖
繩縣管内重罪犯處分ノ儀ハ當分ノ内同縣ニ於テ審訊シ證憑擬律案
ヲ具ヘ長崎控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ治罪ノ手續ハ便
宜ノ取計ヲ爲スコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

明治十五年七月八日

太政大臣三條實美
司法卿 大木喬任

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
全員起立

○議長 全會一致ナルニヨリ本案ハ異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具
シ例ニ遵ヒ上奏スヘシ

右畢テ第三百二十號議案第二讀會ノ開議アリ其筆記ハ別冊ニ
載ス

元老院會議筆記明治十五年七月十八日

○第三百二十八號議案 日本坑法第三章中第九 第一第二及第三讀
初項へ但書追加ノ儀

會

議長 代理
佐野常民

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 三番 | 柴原 和 |
| 五番 | 鍋島 幹 |
| 六番 | 箕作 麟祥 |
| 七番 | 海江田信義 |
| 十二番 | 大久保一翁 |
| 十四番 | 渡邊 清 |

十五番	伊丹 重賢
十六番	神田 孝平
十七番	楠本 正隆
十八番	東久世通禧
二十番	三浦 安
廿三番	岩下 方平
廿四番	黒田 清綱
廿六番	榎村 正直
卅一番	西 周
卅二番	野村 素介
卅三番	林 友幸

長岡 護美
 渡邊 洪基
 津田 真道
 内閣委員 一番 山尾 庸三
 参事院議官補落合 二番 濟三
 午前第九時四十分開場

○議長 第三百三十八號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ
 遵ヒ發議スヘシ
 書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス
 布告案

明治六年七月第貳百五拾九號布告日本坑法第三章中第九初項へ左ノ

但書ヲ追加ス

但石炭礦ノ借區ハ壹萬坪以上ニ限ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○番二番落合
外二番濟三 本案ノ大意ヲ説明スルニ先チ聊カ文字ノ誤謬ヲ訂正

○セン案中「但石炭礦云々」トアル礦ハ坑ノ誤ナリ各位請フ之ヲ諒セヨ抑モ本案ノ大意ハ從來鑛山借區ニ坪數ノ制限アラサルヨリ試ミニ石炭坑二百坪若クハ三百坪内外ヲ借區シ之カ開坑ニ着手スル者往々之アリ此輩ハ其資力素ヨリ脆薄ナルヲ以テ其目的ヲ達スルニ能ハス中途ニシテ其業ヲ廢止シ坑穴ハ恰モ蜂巢ノ如クシ爲メニ山地ノ崩潰ヲ來スヲ免レス是レ其借區ニ坪數ノ制限ナキノ弊ナリ此弊害多キヲ以テ主務省即チ工部省ヨリ本案ヲ出シ内閣ノ議ヲ經テ

制定シタル者ナレハ各位之ヲ諒シテ速ニ可決アラシコトヲ望ム

○議長 各位ノ聽カル、如ク番外二番ヨリ「但石炭礦云々」ノ礦ハ坑ノ誤字ナリトノ説明アレハ之ヲ領スヘシ

○十五番伊丹重賢 番外二番ノ説明ヲ得テ詳ニ本案ノ大意ヲ知レリ而シ

テ他ノ借區開坑ハ素ヨリ無制限ナリ今特ニ其借區ノ坪數ヲ一萬坪以上ト限定セシハ如何ナル憑據ヨリ起算セシヤ

○番二番落合
外二番濟三 十五番ノ質疑ニ答ヘン特ニ其借區ノ坪數ヲ一萬坪以上ト限定セシハ別ニ憑據アルニアラス只興業者ノ資力ト興業ノ實地トニ就テ考ルニ千坪以下ハ狹キニ過キ十萬坪以上ハ廣キニ失スルノ恐レアルニヨリ之ヲ折衷シタルナリ此ノ如クセハ前ニ陳述セシ所ノ弊害ヲ防止スルニ足ルヘシト信スルナリ

○十五番伊丹重賢 再ヒ間フ此布告ヲ發セラル、モ從來興業中ノ分ハ措

テ間ハサルカ

○外番二番落合濟三 十五番陳述ノ如ク既ニ借區開坑ヲ許可セシ者ハ固ヨ

リ措テ間ハサルノ意ナレトモ原來借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期

ト爲スモノナルニヨリ現在一萬坪以下ノ借區ヲ爲ス者アルモ其期

ニ至レハ則チ止メ此ノ如ク次第ニ減少シ他日全ク之ナキニ至ルヘ

ケレハ是等ハ敢テ顧慮ヲ要セサルナリ

○議長 本案ハ簡單ナル法案ナルノミナラス現時他ニ下付ノ議案モ

少ナカラサルヲ以テ更ニ時日ヲ費ヤスヲ欲セス本會ヲ畢レハ今日

引續キ第二讀會ヲ開ントス之ヲ衆議ニ間ハン

○外番一番山尾庸三 願クハ引續キ第二及第三讀會ヲモ開カレンコトヲ請

求ス

○議長 衆議ニ間ハントスルニ際シ又内閣委員ノ請求アリ旁々決ヲ

取ラン第一讀會ノ後引續キ第二及第三讀會ヲ開クニ同意者ハ起立

スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ引續キ第二及第三讀會ヲ開クニ決シ茲

ニ第一讀會ヲ畢リ第二讀會ヲ開ク議案ノ朗讀ハ之ヲ畧スヘシ

○十四番渡邊清 本官ハ石炭坑ノ借區ハ壹萬坪以上ニテモ猶ホ寡額ナ

リトシ十萬坪若クハ二十萬坪トモ爲ント欲スル者ナリ實ニ石炭坑

借區ノ弊害ハ本官ノ嘗テ目撃シ又耳聞スル所ニシテ該營業者ハ俗

ニ所謂山師稼キヲ多シトス其故ハ概子二割以上ノ高利ヲ拂テ二三

百ノ金圓ヲ借り試ミニ開坑ニ從事スルカ如キ者ノミナルヲ以テナ
 リ蓋シ十萬圓以上ノ資力アル者ニシテ十萬坪以上ノ借區ヲ爲シ之
 カ開坑ニ從事セハ始テ其目的ヲ達シ得ヘキモ前ニ陳ル如ク僅々ノ
 資金ヲ以テ二三百坪ヲ借り之カ開坑ニ着手スルニ由リ徒ラニ鑛山
 ヲ荒ラスノミニシテ其目的ヲ達スルコトナク之カ爲メ借區券ヲ賣
 却シ遂ニハ身代限ニ處セラル、ニ至ルモノ比々多クハ是ナリ豈歎
 息スヘキニアラスヤ其レスノ如シハ天然ノ國產モ空ク地中ニ埋没
 シ良品モ功ヲ爲サス資本空シク損シテ爲メニ他ノ物産ニモ影響ヲ
 及ホスヘシ故ニ巨萬ノ資金ヲ有スル者ニアラサレハ着手スル能ハ
 サルコトシ其借區ヲ多額ニ限り乃チ十萬若クハ二十萬坪トモ爲シ
 タキモ是レ今日ニ在テ望ムヘカラサルヲ以テ本案ニテ適當ト爲ス

ナリ

○議長 十四番ハ案中石炭坑借區ノ坪數ニ對シテ修正說ヲ提出シタ
 ルニ在ル乎

○十四番 渡邊清 否本案ニ同意ヲ表シタルナリ

○議長 發議盡タリト認ルヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘ
 シ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ此ニ第二讀會ヲ畢リ引續キ第三讀會ヲ
 開クノ期ニ際セリ然レトモ本案ハ本會ニ於テ毫モ異議ナク決シタ
 ルニヨリ本會ノ決議ヲ第三讀會ト認ムヘキヤ否ヤノ決ヲ取ン即チ
 本會ヲ以テ第三讀會ノ決議ト認ルニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本會ヲ第三讀會ノ決議ト爲シ本案ニ可決シ例ニ遵ヒ上奏スヘシ散會セヨ

午前第十時閉場

元老院會議筆記明治十五年七月十八日

○第三百三十八號議案 日本坑法第三章中第九第一第二及第三讀初項へ但書追加ノ儀

會

議長 代理 佐野常民

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 三番 | 柴原 和 |
| 五番 | 鍋島 幹 |
| 六番 | 箕作 麟祥 |
| 七番 | 海江田信義 |
| 十二番 | 大久保一翁 |
| 十四番 | 渡邊 清 |

- 十五番 伊丹 重賢
- 十六番 神田 孝平
- 十七番 楠本 正隆
- 十八番 東久世通禧
- 二十番 三浦 安
- 廿三番 岩下 方平
- 廿四番 黒田 清綱
- 廿六番 榎村 正直
- 卅一番 西 周
- 卅二番 野村 素介
- 卅三番 林 友幸

- 卅四番 長岡 護美
- 卅五番 渡邊 洪基
- 卅六番 津田 眞道
- 内閣委員 番外 参事院議官山尾 庸三
- 参事院議官補落合 濟三
- 番外 参事院議官補落合 濟三
- 午前第九時四十分開場

○議長 第三百三十八號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ

遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治六年七月第貳百五拾九號布告日本坑法第三章中第九初項へ左ノ

但書ヲ追加ス

但石炭礦ノ借區ハ壹萬坪以上ニ限ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○番二番落合
外二番濟三 本案ノ大意ヲ説明スルニ先チ聊カ文字ノ誤謬ヲ訂正

セン案中「但石炭礦云々」トアル礦ハ坑ノ誤ナリ各位請フ之ヲ諒セヨ抑モ本案ノ大意ハ從來鑛山借區ニ坪數ノ制限アラサルヨリ試ミニ石炭坑二百坪若クハ三百坪内外ヲ借區シ之カ開坑ニ着手スル者往々之アリ此輩ハ其資力素ヨリ脆薄ナルヲ以テ其目的ヲ達スル不能ハス中途ニシテ其業ヲ廢止シ坑穴ハ恰モ蜂巢ノ如クシ爲メニ山地ノ崩潰ヲ來スヲ免レス是レ其借區ニ坪數ノ制限ナキノ弊ナリ此弊害多キヲ以テ主務省即チ工部省ヨリ本案ヲ出シ内閣ノ議ヲ經テ

制定シタル者ナレハ各位之ヲ諒シテ速ニ可決アラシムコトヲ望ム

○議長 各位ノ聽カル、如ク番外二番ヨリ「但石炭礦云々」ノ礦ハ坑ノ誤字ナリトノ説明アレハ之ヲ領スヘシ

○十五番伊丹重賢 番外二番ノ説明ヲ得テ詳ニ本案ノ大意ヲ知レリ而シテ他ノ借區開坑ハ素ヨリ無制限ナリ今特ニ其借區ノ坪數ヲ一萬坪以上ト限定セシハ如何ナル憑據ヨリ起算セシヤ

○番二番落合
外二番濟三 十五番ノ質疑ニ答ヘン特ニ其借區ノ坪數ヲ一萬坪以上ト限定セシハ別ニ憑據アルニアラス只興業者ノ資力ト興業ノ實地トニ就テ考ルニ千坪以下ハ狹キニ過キ十萬坪以上ハ廣キニ失スルノ恐レアルニヨリ之ヲ折衷シタルナリ此ノ如クセハ前ニ陳述セシ所ノ弊害ヲ防止スルニ足ルヘシト信スルナリ

○十五番 伊丹重賢 再ヒ問フ此布告ヲ發セラル、モ從來興業中ノ分ハ措

テ間ハサルカ

○番二 落合三合 十五番陳述ノ如ク既ニ借區開坑ヲ許可セシ者ハ固ヨ

リ措テ間ハサルノ意ナレトモ原來借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期

ト爲スモノナルニヨリ現在一萬坪以下ノ借區ヲ爲ス者アルモ其期

ニ至レハ則チ止メ此ノ如ク次第ニ減少シ他日全ク之ナキニ至ルヘ

ケレハ是等ハ敢テ顧慮ヲ要セサルナリ

○議長 本案ハ簡單ナル法案ナルノミナラス現時他ニ下付ノ議案モ

少ナカラサルヲ以テ更ニ時日ヲ費ヤスヲ欲セス本會ヲ畢レハ今日

引續キ第二讀會ヲ開ントス之ヲ衆議ニ問ハン

○番一 山尾庸三 願クハ引續キ第二及第三讀會ヲモ開カレンコトヲ請

求ス

○議長 衆議ニ問ハントスルニ際シ又内閣委員ノ請求アリ旁々決ヲ

取ラン第一讀會ノ後引續キ第二及第三讀會ヲ開クニ同意者ハ起立

スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ引續キ第二及第三讀會ヲ開クニ決シ茲

ニ第一讀會ヲ畢リ第二讀會ヲ開ク議案ノ朗讀ハ之ヲ畧スヘシ

○十四番 渡邊清 本官ハ石炭坑ノ借區ハ壹萬坪以上ニテモ猶ホ寡額ナ

リトシ十萬坪若クハ二十萬坪トモ爲ント欲スル者ナリ實ニ石炭坑

借區ノ弊害ハ本官ノ嘗テ目撃シ又耳聞スル所ニシテ該營業者ハ俗

ニ所謂山師稼キヲ多シトス其故ハ概子二割以上ノ高利ヲ拂テ二三

百ノ金圓ヲ借り試ミニ開坑ニ従事スルカ如キ者ノミナルヲ以テナ
 リ蓋シ十萬圓以上ノ資カアル者ニシテ十萬坪以上ノ借區ヲ爲シ之
 カ開坑ニ従事セハ始テ其目的ヲ達シ得ヘキモ前ニ陳ル如ク僅々ノ
 資金ヲ以テ二三百坪ヲ借り之カ開坑ニ着手スルニ由リ徒ラニ鑛山
 ヲ荒ラスノミニシテ其目的ヲ達スルコトナク之カ爲メ借區券ヲ賣
 却シ遂ニハ身代限ニ處セラル、ニ至ルモノ比々多クハ是ナリ豈歎
 息スヘキニアラスヤ其レ斯ノ如シハ天然ノ國產モ空ク地中ニ埋沒
 シ良品モ功ヲ爲サス資本空シク損シテ爲メニ他ノ物產ニモ影響ヲ
 及ホスヘシ故ニ巨萬ノ資金ヲ有スル者ニアラサレハ着手スル能ハ
 サルコトシ其借區ヲ多額ニ限り乃チ十萬若クハ二十萬坪トモ爲シ
 タキモ是レ今日ニ在テ望ムヘカラサルヲ以テ本案ニテ適當ト爲ス

ナリ

○議長 十四番ハ案中石炭坑借區ノ坪數ニ對シテ修正說ヲ提出シタ
 ルニ在ル乎

○十四番 渡邊清 否本案ニ同意ヲ表シタルナリ

○議長 發議盡タリト認ルヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘ
 シ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ此ニ第二讀會ヲ畢リ引續キ第三讀會ヲ
 開クノ期ニ際セリ然レトモ本案ハ本會ニ於テ毫モ異議ナク決シタ
 ルニヨリ本會ノ決議ヲ第三讀會ト認ムヘキヤ否ヤノ決ヲ取ン即チ
 本會ヲ以テ第三讀會ノ決議ト認ルニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本會ヲ第三讀會ノ決議ト爲シ本案ニ可決シ例ニ遵ヒ上奏スヘシ散會セヨ

午前第十時閉場

元老院會議筆記明治十五年七月廿一日

禁傍聽

○第三百三十九號議案 請願規則 第一讀會 布告案

議長 佐野常民

出席議員

三番	柴原	和
五番	鍋島	幹
六番	箕作	麟祥
七番	海江田	信義
十二番	大久保	一翁
十三番	本田	親雄
十四番	渡邊	清

十五番	伊丹 重賢
十六番	神田 孝平
十七番	楠本 正隆
十八番	東久世通禧
十九番	鍋島 直彬
二十番	三浦 安
廿一番	鍋島 直大
廿六番	榎村 正直
廿七番	伊集院兼寛
卅一番	西 周
卅三番	林 友幸

卅四番	長岡 護美
卅五番	渡邊 洪基
卅六番	津田 眞道
内閣委員	水本 成美
<small>番外一番</small>	
<small>番外二番</small>	井上 毅
<small>番外三番</small>	久保田貫一

午前第十時三十五分開場

○議長 第三百三十九號議案ノ第一讀會ヲ開ク但本案ハ條項浩澁ナルヲ以テ例ニ依リ朗讀ハ通牒文ノミニ止メテ他ハ之ヲ省略スヘシ且告ク案中第十七條ノ「儀杖云々」ノ「杖」ノ字ハ「仗」字ノ誤刷ナリ之ヲ領セヨ

書記官森山茂 左ノ通牒文ヲ朗讀ス

請願規則布告案

右其院議定ニ被付候事

明治十五年七月十八日

太政大臣三條實美

元老院副議長佐野常民殿

左案ハ朗讀ヲ略サレシ者ナレトモ閱覽ノ便ニ供スルカ爲メ附録ス

布告案

請願規則左ノ通制定ス

請願規則

第一條 人民各自ノ利益ニ關スル事件ニ就キ請願セントスル者ハ

左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條 郡區長及戸長權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ

對スル者ハ先ツ郡區長戸長ニ請願スヘシ郡區長戸長ノ指令ニ服

セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者

ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願ス

ルコトヲ得

府知事縣令警視總監權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ

對スル者ハ先ツ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警

視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服

セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ對スル者ハ先

ツ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコ

トヲ得

第三條 凡ソ請願ハ請願書ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ郡區長戸長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ

第五條 府縣郡區總代ノ名ヲ以テシ又ハ成法ニ制定セラレタル會社ヲ除ク外結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス

第六條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ

添フヘシ

第七條 請願書ヲ上呈セント欲スル者ハ必ス本人自カラ之ヲ爲スヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ請願人中ニ於テ總代人ヲ撰ヒ之ニ委托スヘシ其連名十人ヲ越ユル者ト雖モ總代人ノ數五名ヲ越ユルヲ許サス

第八條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又

裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ抗拒スルコトヲ得ス

第十三條 凡ソ事ノ立法ニ關シ建白ニ屬スヘキ者ハ各自ノ利益ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ何等ノ事由アルモ請願ヲ受理セス

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第七條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條 請願人ハ儀杖ニ逼近シ又ハ引謁ヲ乞フコトヲ許サス其

不敬ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請ヒ又ハ前條ノ場合ニ於テ警察官儀衛官ノ說諭ニ從ハサル者ハ十日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條 請願人官吏ニ對シ論爭シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第二十條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サ

ス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十一條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法第三百五十五條ニ依テ處分ス

右奉 勅旨布告候事

○番一番水本本日ハ本員等内閣委員トシテ出席シタルニ依リ爰ニ外番成美本案ノ大旨ヲ畧陳シテ各位ノ參考ニ供セン抑本案ノ大眼目ハ言路洞開ニ在リテ是レ頗ル結構ナルコトナリ蓋シ上古ニ遡リテ之ヲ云ハ、孝德天皇ハ大化元年ニ目安函ヲ作りテ記録所ニ備ヘ玉ヘリ爾後平城天皇ノ御世迄ハ世々相繼キ聽斷ヲ親ラシ玉ヒタルニ惜哉嵯峨天皇以來此事中絶シ後三條帝ニ至リ記録所ヲ置キ聽斷ヲ親ラシ玉ヒシモ御一代ニシテ止ミ後醍醐天皇ノ時ニ及テ復タ記録所ヲ設ケ

楠正成等ヲ召サセラレ以テ大ニ皇室中興ノ業ヲ恢復セントシ玉ヒシカトモ遂ニ又タ叡慮ノ如クナラサリキ看ルヘシ言路洞開ハ古聖天子ノ望マセラレタルコト此ノ如クナルヲ爰ニ其洞開ノ道ニニアリ一ハ即チ一般ノ公益ニ關スル事件ヲ上言セシムルニ在リテ要スルニ上ニ廢政ナク又失德ナキヲ欲シテナリ他ハ人民各自ノ利益ニ關スル事件ヲ上達セシムルニ在リ之ヲ要スルニ冤枉疾苦ノ徒ナカラシムルカ爲メナリ而シテ此二箇ノ門戸ノ須ラク俱ニ開カサルヘカラサルハ論ヲ埃タス回顧セハ維新以後其一門即チ一般ノ公益ニ關シテ上言スルノ途ヲ開カレタルハ夫ノ明治元年ノ御誓文ニ基キ同二年公議所ヲ設ケ又待詔局ヲ置カレタルヲ始メトス爾後此公議所ヲ集議院ト改稱シ又左院ト改メラレ八年四月十四日漸ヲ以テ立

憲政體ヲ立ルノ詔アリテ元老大審ノ二院ヲ設立シ同月廿五日第六十八號ヲ以テ諸建白類ハ自今元老院ニ呈供スヘキ旨ヲ公布セラレタリ乃チ公益私益ノ別ナク甚タシキハ怨訴等ノ書面ヲモ同院ニ上呈スル者アリタルニ由リ同十一月第七十八號布告ヲ以テ更ニ立法ニ關スルコトハ元老院ニ其他ハ主務省ニ申出ツヘキ旨ヲ公示サレタリ爾後又同十二年ノ交ニ於テ國會願望者陸續相踵キ或ハ太政官ニ迫リ或ハ元老院ニ來リタルニ當時是等ヲ待ツノ法律ナク兩官衙俱ニ之カ處辨ニ困却シ之カ爲メ十三年十二月第五十三號布告ヲ以テ一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラズ渾テ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱フコトヲ明示セリ仍テ元老院モ亦更ニ建白取扱規則ヲ製シテ之ヲ措置スルコト、爲シタリ是ニ

於テ一般ノ公益ニ關シテ上言スルノ門ハ全ク開披セラレタリト云フヘシ顧ミテ他ノ一門即チ人民各自ノ利益ニ關シテ上言スルノ途如何ト考フルニ維新後ハ明治元年二月廿日目安函ヲ設ケタルヲ始トシ同四年四月廿四日民部省ニ越訴函訴ノ規定ヲ設ケ其後夫ノ行政裁判ノ途ヲ開キ又直願取扱規則ヲ作りテ地方官郡區戶長等ヲ對手トシテ內務省ニ訴フルヲ得ルノ規則ヲ定メタリ而シテ此直願規則ノ如キハ內務省限りノ者ナレハ之ニ據テ訴フルモ亦同省限り之カ可否ヲ決スルニ過キササルヲ以テ那ノ山口惣兵衛ノ如キ及近時大坂酒問屋ノ請願ノ如キ皆之ヲ待ツノ途ナキニ苦シメリ但山口ノ如キハ本規則ニ據ルヘク他ノ酒問屋ノ如キハ自己ノ利益ノ爲メナルモ其旨國稅ノ改正ヲ望ムニ在レハ寧ロ建白ノ部分ニ皈シ元老院ニ

上呈スヘキ者ナレトモ前説ノ如ク是等ヲ待ツノ法未タ備ラサルカ
 爲メ之ヲ如何トモスル能ハス是レ今日本案ノ制定ヲ要スル所以ニ
 シテ從來此法ノ設ケナカリシハ眞ニ一大缺典ト云フヘキモノナリ
 人或ハ謂ハン行政裁判アリ審理局アリ豈又本案ヲ要センヤト決シ
 テ然ラス審理局ハ府縣會規則第九條ノ場合ニ關スル争訟ヲ審理ス
 ルノ官タルニ止マリ而シテ行政裁判ハ人民ヨリ地方長官若クハ郡
 區戸長等ヲ被告トシテ曲直ヲ諍フ者ナレハ之カ爲メ往々官民ノ間
 ニ不和ヲ生スルノ弊害ヲ免レス加之審理局ヘ訴フルハ勿論行政裁
 判ヲモ請フ能ハサルカ如キ私益ニ關スル請願ノ類亦少ナカラス而
 シテ是等ハ那ノ直願取扱規則ニ據テ訴シ乎内務省ノ裁定ヲ經ルニ
 過キス此ノ如キニ止メハ豈所謂言路洞開ノ旨意ヲ得タル者ナラン

ヤ然ラハ過誤失錯ナリ讒毀誹謗ナリ凡ソ人ノ言ント欲スル所ノ者
 ハ忌憚ナク皆之ヲ上言スルヲ許スヘキ乎否決シテ許スヘカラス凡
 ソ當然ノ上言ナランニハ下ハ郡區長又ハ戸長ノ處分ニ對スル不服
 ト雖モ猶ホ太政官ニ申明シ天皇陛下ノ宸裁ヲ仰クヲ得セシムヘキ
 モ此ニ厭フヘキハ近時輕躁過激ノ徒ノ動モスレハ良民ヲ教唆誘導
 シテ漫ニ争訟ヲ興シ名ヲ出訴請願等ニ假テ太政官等ニ迫ルノ惡風
 アリ是等ハ宜シク懲戒セサルヘカラス然ラサレハ遂ニ言フヘカラ
 サルノ災害ヲ醸生スルノ恐レアリ故ニ本案ハ言路洞開ノ外亦是等
 ノ輩ヲ懲戒スルノ意ヲ以テ起草シ其極刑罰ニ處スヘキノ明文ヲ掲
 ク一張一弛是レ政略上已ヲ得サルモノナリ然レトモ是等ノ處刑ト
 雖モ亦妄ニ之ヲ嚴ニスルハ好マサル所ナルヲ以テ皆盡ク刑法ト權

衡ヲ同ウセリ本案ノ旨趣概畧右ニ陳ルカ如シ各位ニ於テモ願クハ目下本案ノ緊要ナル所以ト之ヲ設クルニ就テハ又前陳ノ如キ管理法ノナカルヘカラサル旨趣トヲ領會アリテ議定セラレンコトヲ若シ其細目ノ如キハ質問ニ應シテ他内閣委員ヨリ之ヲ説明スヘシ本員モ亦之ヲ辨セン且告ク本日ハ本員等内閣委員ノ任ヲ負フテ出席シタルニ依リ本案ヲ主持スルハ固ヨリ言ヲ俟タサレトモ要スルニ其主持スル所ハ特ニ本案ノ旨趣ニ在ルヲ以テ文字ノ修正條款ノ轉置等ノ如キハ敢テ之ヲ拒マス各位ノ所見ニ委スヘキナリ

○十五番 伊丹重賢

本案ノ大意ハ内閣委員ノ詳細ナル説明ニテ全ク領會セリ言路洞開ノ旨趣モ結構ナリ輕躁者流ヲ懲戒スルモ亦必要ナルヘシ本官固ヨリ之ニ同意ナレトモ只聊憂慮スル所ハ本案ヲ發スレ

ハ或ハ恐ル前日國會請願者ノ太政官門前ニ幅湊シタルカ如キ景況ヲ再ヒ看ルアラシコトヲ良シ本案ハ管理ノ明文ヲモ掲ケタルヲ以テ復タ前日ノ如キ甚シキニ至ラサルヘキモ本案ハ稍ヤ其洞開ニ過キタルノ恐レナキ能ハス看ルヘシ代言人規則ノ如キ其制定ニ至リタルハ甚タ結構ナルモ那ノ代言人ノ良民ヲ教唆煽動シテ妄ニ訴ヲ起サシメ其甚シキハ夫ノ福島正則ノ預金古證書ニ對シテノ返還ヲ要求スルカ如キ者アルニ至レリ是ニ由テ之ヲ考フルニ今本案ヲ發表セハ俗ニ所謂三百代言ノ徒自己ノ日當ヲ得ルヲ目的トシ到底敗訴ニ歸スヘキ事件ト雖モ猶ホ良民ヲ煽動シテ訴ヲ起サシメ初審裁判ニ敗訴セハ上等裁判ヲ仰キ又進ンテ大審院ニ上リ結局敗訴ニ歸シテ止ムト同ク戸長若クハ郡區長ニ對スル請願書モ到底太政官ニ

上ラサレハ止マサルカ如キ弊害ヲ生スルノ恐レアリ因テ本官ハ第二讀會ヲ俟テ幸ニ言路ノ門ハ半開位ニ止メテ放逸ニ失セサルノ好修正ヲ得ハ之ヲ提出セント欲スルナリ

○六番 箕作麟祥

本官ハ大体ニ於テ最モ本案ヲ賛成スル者ナリ其理由ハ今番外一番ノ縷述アリシ如ク請願規則ノ今日ニ必要ナルニ由テナリ尙ホ聊カ之カ近時ノ沿革ヲ述レハ一昨十三年十一月内閣ヨリ願望書取扱規則ナル議案ヲ本院ニ下付セラレタリ而シテ其條款ハ十二條ニシテ大旨趣ハ願望ヲ二箇ニ分別シ私益ニ關スルヲ請願トシ公益ニ關スルヲ建白トシ請願ハ主務省ニ呈シ建白ハ元老院ニ捧クヘシト云フニ在リテ即チ若干ノ修正潤色ノ上該案ハ上奏ナリシカトモ當時某議官ハ國會願望者等ノ囂々タル今日ニ當リ該案ヲ發ス

ルハ得策ニ非ストシテ更ニ一種ノ意見書ヲ本院ニ提出シ遂ニ議定シテ上奏スルニ至リ其結果ハ同年第五十三號ノ布告トナレリ蓋シ該布告ハ止タ公益ニ關スル上書ノミノ措置ニシテ私益ニ關スルノ措置如何ハ今日猶ホ未タ備ラサルニ由リ官民俱ニ困苦スルノ秋ナレハ今之ヲ設クルハ實ニ緊要ト云ハサルヘカラス但目下某議官ヨリ言路洞開ハ結構ナルモ本案ノ儘ナランニハ輕躁者流ノ名ヲ請願ニ假テ妄ニ太政官ニ迫ルノ弊ヲ生セントノ說ハ本官モ亦同感ナリ現ニ第二條ノ云々權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ對スル者ハ先ツ郡區長戸長ニ請願スヘシ郡區長戸長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ云々是等ノ如キ其既ニ行ヘル處分ニ對スル請願ハ素ヨリ宜ヘナリト雖モ只郡區長等權内ノ事件ニ屬スル迄

ニシテ未タ人民ノ害トナラス之ヲ行フ時ハ害アルヘシト思惟スル
 カ如キ未來ノ事件ニ對シテ^レチシヨ^レ即チ請願スルヲ許スノミナ
 ラス其既ニ行ヘル處分ニ對スル不服ト同シク進テ太政官ニ迄請願
 スルヲ允スハ恐ラク弊害ヲ免レサルヘシ之ヲ佛國ノ法例ニ徵スル
 ニ同國ニ於テモ公利私益ニ關スル請願ハ人民ノ權利ニ屬スル者ト
 シテ之ヲ爲スヲ許スモ其以前ハ止タ元老院ヘノミ提出セシムルニ
 過キス而シテ近來ハ同院及國會議院又大統領ニモ上呈スルヲ許シ
 タレトモ本案ノ如ク順次上司ニ呈スル^レ恰モ行政裁判ノ控訴上告
 ニ於ケルカ如キニ非サルナリ蓋シ佛國ハ佛國ノ制度慣習アリ又皇
 國ハ皇國ノ制度慣習アルヲ以テ必スシモ百事皆彼ニ模擬セント欲
 スルニ非サレトモ本官ハ寧ロ彼法ニ據ルヲ優レリトス特ニ理論ヨ

リ云ハ、未タ執行セサル事件ニ於ケルモ既ニ行ヘル事件ニ對スル
 ト同シク不服ノ時ハ縦ヒ郡區長ノ權内ニ屬スル者ト雖モ序ヲ追テ
 遂ニ太政官ニモ請願スルヲ得ル者ト爲スハ至當ナルニ似タレトモ
 決シテ理論ノミニ偏依スヘカラス要スルニ言路ノ洞開ハ緊要ノ事
 件ナルモ之ニ託シテ濫リニ上書シ國家ノ害ヲ爲スノ恐レアレハ前
 陳ノ如ク未行ノ事件ニ於ケル者ト既行ノ事件ニ對スル者トハ宜シ
 ク殊別セサルヘカラサルナリ但此ノ如ク論スルモ本官ハ將來ノコ
 トニ關シテハ一言隻句モ言ハシムヘカラスト云フニ非ス惟本案ノ
 如ク未行事件ニ就キ戸長及郡區長ノ處分ニ不服ナル時ト雖モ進テ
 太政官ニ迄モ請願スルヲ許スハ不穩當ナリト言フニ過サルノミ茲
 ニ發言ノ次テナルヲ以テ內閣委員ニ疑ヲ質サントス那ノ養子女願

モ亦人民各自ノ利益ニ關スル者ナレハ之カ請願ヲ許スノ意乎若シ然ラハ他ノ請願ト同シク郡區長等ノ處分ニ不服ナル時ハ遂ニ太政官ニ請願スルモ亦妨ケナキ乎但是等ニ關シテハ他ニ成規ノアルアレハ本案トハ全ク關係ヲ有セサル乎是レ偶然ノ疑問ニ非ス一昨年願望書取扱規則ヲ議スル時ニ當リ嘗テ此疑ヒアリテ之ヲ質シタルニ遂ニ明瞭ナル答辨ヲ得スシテ已ミタルヲ以テ今復タ之ヲ問フニ在ルナリ又第五條ニ府縣郡區總代ノ名ヲ以テシ又ハ成法ニ制定セラレタル會社ヲ除クノ外結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ストアリ是レ府縣郡區總代ノ名ト成法ニ制定シタル會社トノ外結社總代ノ名ヲ以テ請願スルヲ允サ、ルノ意乎將タ成法ニ制定シタル會社ノ外府縣郡區總代若クハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルヲ許サ

、ルノ意乎又成法ニ制定セラレタル會社トハ如何ナル會社ヲ謂フ乎會社條例ノ未タ制定セラレサル今日ニ在テハ何ニ據テ之ニ適スルト否トヲ識別スヘキヤ又第十一條ニ太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス云々トアリ即チ太政官ノ裁定ニテ人民ノ方否ナリト決セハ最早人民ヨリ之ニ對シテ請願スルヲ得サレハ解スルヲ得レトモ之ニ反シテ人民ノ方是ナリト決セハ行政官吏モ亦之ニ對シテ更ニ請願スルヲ許サ、ルノ意乎此裁定ノ如キ固ヨリ行政裁判ニ非サルモ稍ヤ訴訟ノ体裁アルヲ以テ一旦該官署ノ裁定ヲ經タル上ハ人民ノ不利ト決シタル時ニ限ラス行政官吏ノ不利ト定リタル時ニ於ルモ亦更ニ請願スルヲ得サル乎將タ本案ハ原來人民ニ對シテ云フ者ナレハ行政官吏ニハ之ヲ適用セサルノ意乎以上

四箇之カ説明ヲ乞フ

○番二番井上

外

裁

六番ノ質疑ニ答ヘン本案ノ請願トハ恩惠ノ請願ニシ

テ普通人民ヨリ行政官ニ對シテ許可ヲ請フ者ノ如キハ此ニ含蓄セサルナリ而シテ又恩惠ノ請願ノ外ニ不平ニ關スル請願アリ即チ普通ノ養子女願等ハ普通ノ規則ニ依ル者ナレハ本案ニハ之ヲ包含セス然ルニ同シク養子女願ナルモ法律上禁止シタルコトニ關シテ特別ニ許可ヲ得ント望ムカ如キハ是レ恩惠ノ請願ニ屬シ則チ本案ノ關カル所ナリ第五條ハ府縣郡區總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス又ハ成法ニ制定セラレタル會社ヲ除ク外結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得スト云フノ意ニシテ此ニ以テシ又ハ云々トシタルハ文ノ重複ヲ厭フテナリ成法ニ制定セラレタル會社トハ銀行株

式取引所米商會所鐵道會社等ニシテ要スルニ内務省限り認メタル者ヲ除キ中央政府ヨリ法律ヲ以テ認定シタル會社ヲ謂フナリ又行政官吏ハ請願スルヲ得サルヤ否ヤノ問アリ是レ第一條ニ「人民各自ノ利益ニ關スル事件ニ就キ請願セントスル者ハ云々」トアルニ由リ本案ハ行政官吏ノ請願ヲ含蓄セサル者ト了解シテ可ナリ

○三十五番

渡邊
洪基

本案ノ必用ナルハ之ヲ領セリ本官ハ數年前嘗テ行

政裁判ノ區域ニ關シ頗ル困苦シテ遂ニ請願規則ノ無ルヘカラサル所以ヲ論シ且之ヲ調査シタルコトアリキ爰ニ第二條ニ「云々權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ對スル云々」本官ヲ以テ之ヲ看レハ是等ハ恩惠ノ請願ニ非ス止タ「ベチシヨシ」ノミヲ云フ者トス而シテ郡區長等ノ職務上將ニ爲サントシ又當ニ爲スヘキニ之ヲ爲

サ、ルト其既ニ行ヘル處分ニ對スル者トノ如キハ均シク人民各自ノ利益ニ關スル者ナレハ此間敢テ殊別ナシトス何トナレハ爰ニ堤防ノ破損シタル者アラシニ迅ク之ヲ修繕セサレハ自己ノ田畑ヲ損害スルノ恐レアリ然ルニ其地ヲ管スル郡區長等ニシテ之ヲ忽諸ニ付シテ顧ミサルカ如シハ人民ハ其修繕ヲ請求シ猶ホ之ニ着手セサレハ那ノ既ニ行ヘル處分ニ對スル請願ト同ク順次上司ニ請願シ遂ニハ太政官ニ出ルモ亦當ニ不可ナキナリ故ニ此第二條ノ如キハ原案ニテ可ナリ其他案中字句ハ修正ヲ要スルモ意味ニ至テハ都テ本案ニテ不可ナシト思考スルナリ

○三十六番

津田
眞道

本案ハ言路洞開ノ爲メニ設クル者ナリト番外一番ノ詳細ナル説明アレトモ原來言路洞開トハ果シテ如何ナル事ソ夫

ノ支那ニテハ堯舜ノ時代ヨリ喧説シ歲史上美事ナルカ如ク記載スルモ本官ハ其何ノ益アルヲ知ラス只空文ニ屬スルコト、思考スルノミ然レトモ其事タル古來數千年ノ久シキヲ經テ今日ニ至ルモ猶ホ政治上ノ美德トシ衆人ノ之ヲ頌贊スルハ必スヤ其故ナキニ非サルヘシ因テ私ニ其所以ヲ考フルニ僅ニ其理由ヲ得タリ乃チ治者ト爲リテ國ヲ治ルニハ法律モ設ケサルヘカラス人民ノ苦情モ聽カサルヘカラス然ルニ何レノ世ニモ當時ノ政治ハ不可ナリ余ヲシテ政ヲ執ラシメハ斯ノ如クシテ國ヲ治メ斯ノ如クシテ民ヲ安ンセント自分免許ノ政治家夥ク兎角喧擾ヲ免レサルカ爲メ止ヲ得ス堯舜禹湯等ガ此天狗者流ノ心ヲ安ンスルカ爲メニナシタルナリ本官小人ノ心ヲ以テ聖人ノ心ヲ察スレハ此ノ如シ本邦ニ在テモ言路洞開ハ

古來ヨリ唱フル所ニシテ其實際ハ目下番外一番ノ辨明ノ如シ爰ニ本院建白掛ニテ受理スル建白ノ數ハ月々數十箇ヲ下ラス而シテ本官等之ヲ熟讀セサルモ其旨趣ノ本院ニテハ勿論内閣ニ於テモ感服スヘシト認ルカ如キ有用ナル者ハ本官ノ本院ニ奉職シテ以來未ダ嘗テ一モ之アルヲ觀ス概シテ無用ノ空文ノミ此無用ナル建白ヲ爲ス者モ尙ホ天下ヲ治ムルハ此ノ如クセサルヘカラスト欲シテ之ヲ呈スルニ在レハ建白ハ唯此天狗者流ノ心ヲ安ンスルノ一具ニシテ言路洞開ノ用ハ蓋シ此淺薄ナル理由ニ過キサルヘシ但以上ノ說ハ公益ニ關スル言路ノ洞開ニ就テ云フ者ナリ而シテ本案ハ私益ニ關スル言路洞開ノ法案ニシテ右ニ比スレハ頗ル有用ナリトス何トナレハ法律ノ性質ハ動スヘカラストナルニ由リ特別ノ恩惠ヲ請フ

コトノ有用ニシテ止ヲ得サレハナリ番外一番ノ説明中記録所ノ設置ノ如キハ私益ニ關スル者ニシテ此私益ニ關スル言路ノ洞開ハ今所謂文明ノ世界ニ在テ特ニ必用ナルハ本官モ亦疑ハサル所ナリ且本案ノ主意ハ終始之ヲ主持スルモ字句ノ修正條項ノ變更ニ至テハ各位ノ討論審議ニ依リテ宜シキヲ擇ヒ之ヲ代フルモ強テ抗辨セサルヘシトハ理ノ當ニ然ルヘキ說ナリ爰ニ法律上死刑ニ該ル者ノ生命ヲ助ントシテ人民ヨリ天皇陛下ノ特赦ヲ請フ如キ是レ亦此請願規則ニ據ルヲ得ヘシ乃チ本官ハ大主意ニ於テハ本案ニ同意ニシテ是等ノ法律ハナカルヘカラスト思考ス若シ今ニシテ之ヲ設ケスレハ今日私益ニ關スル請願ハ寥々タルモ日ヲ逐テ増加シ遂ニハ前日夫ノ國會願望者ノ陸續太政官門前ニ輻湊シ該官ノ書記官モ一時其

處置ニ窮シタルカ如キコト亦之アルヘケレハナリ然レトモ本案ニ對シテハ或ハ言路ノ洞開ニ過キタリト爲スノ說アリ而シテ其過不足等ハ未タ此判然セス且本案ハ今新タニ制定スル者ナレハ充分ノ討論審議ヲ盡サルヘカラスト考フルヲ以テ本官ハ平日全部附託修正委員ヲ設クルヲ好マサルニ拘ハラズ本案ニ限り特ニ之ヲ設ケラレンコトヲ建議ス但他ニ尙ホ又本案ニ就キ發論等アラシニハ其畢ニ臨ミ之カ決ヲ取ラルヘシ

○十四番 渡邊清

本案ノ要用ナルハ内閣委員ノ辨明ニテ了解セリ原來本官ノ常ニ憂フル所ハ地方官ト管下人民トノ意想毎ニ異ナリ今ヲ以テ將來ヲ推測スルモ地方官能ク今日ノ職權ヲ維持シテ他日ニ失ハサルコトハ恐ラク難カルヘシト危ムニ在リ爰ニ今請願規則ハ必

用ナルモ成ルヘク地方官ノ職權ヲ損セス又人民請願ノ旨趣モ能ク貫徹セシムルヲ欲スルヲ以テ本案ヲ設クルニハ同意ナレトモ往々修正ヲ加ヘサルヘカラスト爲ス者アリ先ツ其一點ヲ舉レハ第二條ノ職權ノコト是レナリ蓋シ特別ノ恩惠ヲ望ムノ請願ナランニハ養子女願等ノコト、雖モ亦郡區戶長ニモ府知事縣令ニモ請願スルヲ得サルヘシ然ルニ案中「權内」ノ事件云々トアルハ穩安ナラサルナリ因テ他事ハ姑ラク措キ本案ハ三十六番建議ノ如ク全部付託修正委員ニ付託スルヲ可トス

○十五番 伊丹重賢

内閣委員ニ質ス第十三條ノ「凡ソ事ノ立法ニ關シ建白云々」トハ如何ナル意義ナルヤ

○外一番 水本成美

十五番ヨリ第十三條ニ關ル質疑アリ乃チ該條ハ讀テ

字ノ如クナレトモ字句少シク錯雜セルニ由リテ此惑ヲ生シタルナルハシ其立法ニ關スル者ハ各自ノ利益ニ係ルト雖モ建白ニ屬スヘキ者ナルヲ以テ受理セスト云フト同一意ニシテ要スルニ過刻モ陳ヘタル如ク近時酒問屋ノ請願ノ如キハ稅則ヨリ動カサ、レハ到底彼ノ私益モ得セシムル能ハサレハ太政官モ之ヲ受理セサルト同シク是等ハ名ハ請願ナルモ其實建白ニ屬スヘキ者ナルニ由リ受理セサルノ意ナリ

○五番鍋島 本案ノ大主意ヲ可トス只聊不審アルヲ以テ之ヲ質サン第二條「郡區長及戶長權内云々」トアリ爰ニ其職制ヲ看ルモ郡區長ト戶長トノ權限ハ各多少ノ差異アリ又實際ニ於テモ其殊別ナキニ非ス但東京府ノミハ區長ニシテ一般戶長ヲ兼ルモ實際他府縣ニ在

テハ郡區長ト戶長ト皆其人ヲ殊ニシ其權ヲ異ニス然ルニ本案同一ニ之ヲ記載シタルハ何ソヤ

○外二番井上 五番ノ質疑ニ答ヘン其疑惑ハ尤ナルコトニテ行政官吏ノ等級ヲ追ヘハ戶長ヨリ郡區長ソレヨリ縣令ト秩序ヲ定ムヘキカ如クナレトモ原來戶長ハ郡區長ニ隸屬セス府知事縣令ノ直轄ヲ受ル者ナレハ或事件ハ郡區長ヨリ直チニ命ヲ受ケ又或ハ郡區長ヲ經由シテ命ヲ受ルモ其失策ヲ爲シタル時之ヲ取消ス如キハ則チ府知事縣令ナレハ本案ハ敢テ順序ヲ紊ルニ非サルナリ但地方ニ依リ實際戶長拜命ノ辭令ハ郡區長ヨリ交付シ戶長ハ眞ニ郡區長ノ隸屬タルカ如キ慣行アルニ似タレトモ是等ハ終ニ改正セサルヘカラス且實際戶長ニ對スル不服ハ直チニ府知事縣令ニ請願スルヲ得ハ人

民ノ便利ナルニ依テナリ

○十四番 渡邊清

本官ハ内閣委員ノ答辨ニ由リ今又第二條中權内ノ事
件云々ニ就キ細思スルニ恩惠ノ請願即チ規則外ノ事ヲ請フト云ハ
、第十三條ノ凡ソ事ノ立法ニ關シ建白ニ屬スヘキ者ハ云々受理セ
スト云ヘル明文ト抵觸スルカ如キ疑惑ヲ生シ輕々其然ラサル所以
ヲ發見スル能ハス是等ノコトアルヲ以テ本官ハ益修正委員ヲ設ク
ルヲ希望スルナリ

○番二番 井上毅

最早第一讀會畢了ノ機ニ際セリト思考ス而シテ三十
六番ノ建議ハ議場ノ多數ヲ占ムヘシト推測セラル抑モ文字ノ修正
等ハ番外一番ノ前辨ノ如ク素ヨリ望ム所ナレトモ六番十四番ノ説
ハ本案ノ旨趣ヲ滅没スルノ恐レアルニ依リ爰ニ其説ニ對シテ一辨

シ豫メ之カ全部付託修正委員ニ當ル議官ノ參考ニ供セントス抑此
第二條ハ六番等ノ疑惑ノ如ク事ナキニ事ヲ生スルカ如キ恐レナキ
ニ非サルモ本條ハ立案ノ時甲乙二種ノ論説アリテ遂ニ此ノ如ク決
定シタル者ナレハ今其二種ノ論説ヲ摘述シテ各位ノ參考ニ供スヘ
シ即チ甲ハ曰ク請願ハ法律全部ノ例外ニ限り本案ノ如ク行政官吏
若干ノ等級ヲ經歷セス直チニ太政官ニ提出セシムヘシト乙ハ曰ク
請願ハ事細大トナク皆太政官ニ提出スルヲ許スヘシト甲ニ從シ乎
請願ハ大事ニ限リテ下等行政官吏ノ權内ニ屬スルカ如キ事件ニハ
之ヲ爲スヲ許サルニ在レハ簡約ニシテ可ナルニ似タレトモ一ノ
困難アリ乃チ請願ノ要用ナルハ概シテ之ヲ云ハ、人民ノ苦情ヲ聞
クニ過キス而シテ其苦情ハ上等官吏ニ對スルアリ又下等官吏ニ對

スルアルモ人民各自ノ利益ニ就テ之ヲ云ハ、其關係タル下等官吏ニ對スル者必スシモ毎ニ小ナラス上等官吏ニ對スル者必スシモ毎ニ大ナラス故ニ大事件ニ關シテ請願ヲ允セハ小事件ニ關シテ亦猶ホ之ヲ許サ、ルヘカラス然ラサレハ番外一番ノ謂フ所ノ言路洞開ハ變シテ言路壅塞トナルヘシ然ラハ乙ニ同意セン乎請願ハ事ノ細大トナク皆直チニ太政官ニ出スニ於テハ人民ニ對シテハ甚タ便利ナルニ似タルモ又一ノ支障アリ乃チ六番等ノ顧慮ノ如ク請願者ハ太政官ノ門前ニ輻湊シ其繁雜ニ堪ユル能ハサルヘシ且ヤ之ヲ外國ニ徵スルニ其弊害ノ甚タシキ或ハ婦女子等ニシテ猶ホ數回請願書ヲ携ヘ來ル者アリト云フ甲乙兩說ノ不妥ナル此ノ如シ因テ本案ハ彼此ヲ折衷シ是等ノ弊害ヲ避ケテ請願ハ事細大トナク皆之ヲ許シ

且其事件ニ依リ各行政官吏若干ノ順序ヲ經歷スル者ト爲シタリ蓋シ必スシモ此順序ヲ經ヘキ者ト爲シタルハ其間其請願ノ不當ナルト否トハ自ラ判然シ本人モ亦悟ル所アルヘク又說論ニテ已メシムルノ療法アルヲ以テ之カ爲メ請願ノ三分二ハ殆ント減少シ太政官ノ門前請願人ノ群集スルカ如キ顧慮ナカルヘシト信スルニ由テナリ普國ノ請願規則ヲ看ルニ該規則モ亦本條ノ如ク行政官吏若干ノ階級ヲ歷序シ其經歷シタル官署ノ指令書ヲ添ヘテ請願スルノ例ナリ第二條ノ旨趣ハ以上辨明スルカ如シ又十四番等ヨリ同條中權内ノ事件云々ニ就キ顧慮ノ說アルヲ以テ之カ立案ノ精神ヲ說キ該字句ノ必用ナル所以ヲ明カニスヘシ譬ヘハ刑法ニモ行フヘカラサルヲ行フノ罪ト行フヘクシテ行ハサルノ罪トノ二種アルカ如ク本規

則ニ將來官吏ノ行ハントシ及ヒ其當ニ行フヘキヲ怠リタル事件ト
 既ニ行ヒタル事件トノ二種ニ就キ請願ヲ允スナリ若シソレ既往ノ
 コトノミニシテ將來ノコトハ絶テ言フヘカラストセハ本則ハ眞ノ
 効用ヲ得ヘカラサルヤ明カナレハナリ又既ニ議官席ニ於テ答辨シ
 タレト重複ヲ厭ハス今復タ爰ニ陳述スヘキ者アリ抑請願ハ例ヘハ
 道路ノ修繕汚穢物ノ掃除ノ如キ郡區長若クハ戸長ノ權内ニ屬スル
 者ニ多ク各省卿等ノ權内ニ屬スル者ハ極メテ少ナシ那ノ改姓名ノ
 如キ從前ハ中央政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲ス能ハサリシ
 モ近時地方限リ許可スルヲ得ルコト、ナリ又之ヲ郡區戸長ノ權内
 ニ委シタル地方アリ然ラハ是等モ先ツ郡區戸長ニ請願シ其採用ナ
 キニ於テ始メテ地方長官ニ請願スヘキ者ナリ乃チ修正委員ヲ選ヒ

更ニ綿密ナル調査ヲ爲スハ本員ニ於テモ亦希望スル所ナレトモ立
 案ノ旨趣或ハ湮滅センコトヲ惜ミテ説明ヲ爲ス此ノ如シ庶幾ハ各
 位ノ此ニ注意アラシムコトヲ

○三十四番長岡護美 本官ハ原案ニ左袒スル者ナリ抑請願ハ人民ノ爲ス
 所ニシテ之ヲ許スト否トハ固ヨリ天皇陛下ノ叡慮ニ在ルヘケレハ
 本案ニテ可ナリトス或ハ本案ハ言路洞開ノ旨趣ニ偏シタルカ如ク
 説ク者アルモ案中管理法ヲ掲載シタレハ必シモ顧慮ヲ須ヒス爰ニ
 三十六番ヨリ本案ノ爲メ全部付託修正委員ヲ選フノ建議アリ其修
 正ハ本案字句ノミノ意乎果シテ然ラハ之ニ同意スヘキモ若シ其主
 旨ヲモ併セテ修正セシムルノ意ナランニハ本官ハ之ニ同意スル能
 ハサルナリ如何

○三十六番津田眞道

本官全部付託修正委員ヲ設ケントスルハ持ニ本案字句ノ修正及條項ノ變更ノミナラス意義ト雖モ亦該委員ニ於テ改メサルヘカラスト看認ル時ハ共ニ修正セシムルノ意見ナリ

○六番眞作麟祥

番外二番ヨリ最早取決ノ場合ニ至レリト思フニ由リ各議官ニ注意ノ爲メ辨スル旨ヲ以テ今復タ第二條等ニ就キ縷々ノ説明アリタルヲ以テ本案ノ意ハ益明瞭ニ領會シタリ乃チ本官モ亦爰ニ一言スル所アラントス原來本官ハ一概ニ此第二條ヲ修正スヘシト云フニ非ス又之ヲ削除スヘシト論スルニモ非ス只既ニ行ヘル處分ニ對スル請願及郡區戶長ノ職務上爲スヘキヲ怠リタルニ係ル請願ノ如キハ之ヲ許シテ不可ナキモ本案ノ如ク郡區長及戶長權内ノ事件云々ト云ハ、其權内ノ事件ニ屬スル迄ニテ未タ人民各自

ノ利益ニ關係アラサルコトニ迄猶ホ請願ヲ許スニ至ルヘシ然ルニ第一條ニ所謂利益トハ其意味曠漠トシテ那ノ國安並公安ノ何ノ點ヨリモ論スルヲ得ルト同シク今日ノ囂々タル時勢ヨリ考フレハ之ニ據テ種々ノ口實ヲ以テ請願シ治者ヲシテ混雜ヲ生セシムルカ如キコトアルヤ疑ヒナシ既ニ番外一番ノ説明ノ如ク言路洞開ハ有用ナルモ輕躁過激ノ徒今日世上ニ少ナカラサルカ爲メ案中之カ管理ノ嚴法ヲ掲載スルニ非スヤ其レ此ノ如キ時勢ナレハ本案ノ如クシハ右陳ルカ如キ狂暴論者ヲ現出スルヤ必セリ故ニ既ニ行ヘル處分及ヒ當ニ行フヘクシテ行ハサルカ如キ場合ニ係ル請願ハ固ヨリ允スヘキモ然ラサル未行ノ事件ト雖モ皆同シク太政官ニ迄請願セシムルヲ得ルハ未タ妥當ナラストスルナリ是レ本官ノ本案ニ對

スル意見ナレハ豫メ之ヲ辨シテ修正委員選定ノ建議ニ決シタル後
之カ委員ニ當リタル議官ノ參考ニ供セントスルノミ

○議長 發議盡キタルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル而シテ全部付託修
正委員ヲ設クル三十六番建議ノ決ヲ取シ本建議ニ同意者ハ起立ス
ヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ三十六番ノ建議ニ決シ六番箕作 十六番 孝平

二十六番榎村 三十一番 西三十五番 渡邊 洪基五議官ヲ以テ本案全部付

託修正委員ト爲ス追テ其修正報告ヲ俟テ第二讀會ヲ開クヘシ且告
ク本案ハ祕密ニシテ急速ノ議決ヲ要スル旨太政大臣ヨリ特別ノ通
牒アリ加之暑中休暇ノ期ニ切迫シタルヲ以テ一層修正ノ速了ヲ欲

スルニ由リ本案ニ對シテ修正ノ意見ヲ有スル議官ハ來ル月曜日午
時限り議長又ハ修正委員ニ其旨趣ヲ口陳若クハ筆記提供スヘシ本
日ハ散會セヨ

午後零時四十分閉場

元老院會議筆記明治十五年七月二十七日

禁傍廳

○第三百三十九號議案 請願規則 布告案 第二讀會

議長 佐野 常民

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 五番 | 鍋島 幹 |
| 六番 | 箕作 麟祥 |
| 十二番 | 大久保一翁 |
| 十三番 | 本田 親雄 |
| 十四番 | 渡邊 清 |
| 十五番 | 伊丹 重賢 |
| 十六番 | 神田 孝平 |

- 十八番 東久世通禧
- 十九番 鍋島直彬
- 二十番 三浦安
- 廿三番 岩下方平
- 三十番 楠田英世
- 三十一番 西周
- 三十二番 野村素介
- 三十三番 林友幸
- 三十四番 長岡護美
- 三十五番 渡邊洪基
- 三十六番 津田真道

内閣委員 番外 一番 參事院議官水本 成美

同 番外 二番 參事院議官井上 毅

午前第九時四十分開場

○議長 第三百三十九號議案ノ第二讀會ヲ開ク爰ニ内閣下付原案ト
 修正案トノ二種アルヲ以テ例ニ依テ熟レヲ本案トシテ議スヘキヤ
 ヲ決セン修正案ヲ本案ト爲スニ同意者ハ起立スヘシ
 全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ修正案ヲ案本ト爲ス書記官朗讀ノ後例
 ニ循ヒ發議スヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

請願規則左ノ通制定ス

○六番

箕作
麟祥

本官ハ本案全部付託修正委員ノ一人ナルヲ以テ此ノ如

ク修正ヲ加ヘタル理由ノ大畧ヲ陳述スヘシ第一條ノ「各自」ヲ「各個」

ト爲シタルハ只字句ノ妥當ナルヲ欲シテナリ「利益」ヲ「利害」ニ改メ

タルハ利益トハ英語ノ「インテレスト」佛語ノ「アンテレー」ト云フ義

ニシテ利得ノ意ニ適ス然ルニ原案ノ主旨ハ利害得失ト云フニ在ル

ヲ以テ之ヲ改メ誤解ナカラシムルナリ又「事件」ヲ「行政上ノ處分」ト

修正シタルハ「事件」ノ字ハ次條ニモ之アリテ重複ノ恐レアルト本

條ハ畢竟本案大體ノ釋義ナルトニ依リテナリ即チ斯ノ如クセハ意

義判明ニシテ前會質疑アリタル那ノ養子女願等ノ之ニ含蓄セサル

ヲ得テ知ルヘケレハナリ第二條原案ハ「權内」ノ事件ニ屬シ又ハ其既

ニ行ヘル處分云々「既往」ト將來トノ二様ニ分掲シタリ而シテ又以下
ノ文字アルカ爲メ其將來ニ關スル者ノ意味頗ル廣キカ如キ疑ヒア
ルヲ以テ甚シキハ郡區長等ニ迫リテ足下ハ其任ニ堪ヘサルニ依リ
辭表ヲ呈スヘシト請願シ郡區長ニシテ之ヲ諾セサレハ更ニ其地方
長官ニ迫リ長官モ亦諾セサレハ内務卿ニ迫ルカ如キ狂暴者ナキヲ
期セス是レ「權内」ナル廣意義ノ字面ト又以下ノ文字アルトニ源ス
ルノ支障ナルヲ以テ「權内」ヲ「職務内」ト改メ「ニ屬シ又ハ云々」ノ十八
字ヲ削除シタリ即チ前ニ「行政上ノ處分」ト云ヘルト對照シテ職務
内ナル行政上ノ處分ナルコト明瞭ナラシムルカ爲メナリ其第二第
三兩項ノ修正モ亦然リ第三條「請願ハ請願書ヲ云々」トハ字句穩妥
ナラス故ニ之ヲ改メタリ第四條中「郡區長」ノ三字ヲ刪リタルハ敢

テ緊要ノ理由アツテ然ルニ非ス只原案ハ郡區長ハ戸長ト同シク人
民ニ密接シタル者ナレハ郡區長ニ請願スルハ戸長ニ請願スルト同
シク住所戸長ノ奥印ヲ要セスト云フニ在ルヘケレトモ郡區長ハ戸
長ノ如ク請願人ノ果シテ何町村ノ何人ナルヤ否ヤ盡ク之ヲ知ル能
ハス況ヤ譬ヘハ葛飾郡ノ人民モ日本橋區長ニ關スル請願ハ該區長
ニ出サ、ルヘカラサルヲヤ且原來郡區長ニ出ス願書ニハ從來住所
戸長ノ奥印ヲ受クルコト一般ノ例規ナルヲ以テ今之ニ倣フテナリ
第五條「府縣郡區總代ノ名ヲ以テシ」トハ名ヲ以テ請願スルノ意ナ
ルハ稍ヤ解スルヲ得レトモ是レ請願スルヲ得ルノ意乎將タ得サル
ノ意乎得テ分明ナラス因テ得ヌコトヲ先ニシ之カ例外ナル得ルコ
トヲ後ニセリ是レ前會議長ノ宣告ニ基キ某議官ヨリ本員等ニ宛テ

提出シタルハ修正意見ニ依ル者ナリ第六條即チ原案第七條中「必ス
本人自カラ之ヲ爲スヘシ」トノ字句ハ次條ノ「請願書ハ郵便ヲ以テ
上呈スルコトヲ得」ト云ヘルニ矛盾スルカ如キ嫌ヒアルニ依リテ此
ノ如ク修正シタリ又其連名十人ヲ超ユル者云々」トハ十名以上ニ
及フモ五名以上ノ總代人ヲ出スヘカラストノ旨趣ニ外ナラサレハ
無用ノ文字ヲ削リテ斯ノ如ク章句ヲ短縮ナラシメ而シテ總代人ノ
人員ヲ限ルハ建白ニ於ケルモ同様畢竟強訴ノ如ク多衆ヲ以テスル
ノ不當ナルニ由ルモノナレハ素ヨリ五名ヲ要セス只一名ニテモ足
ルヘシト雖モ請願者ノ便宜ヲ圖リ此ニ折衷シテ三人トセリ第十二
條ノ「抗拒云々」ハ刑法第三百二十九條ノ「官吏其職務ヲ以テ法律規則
ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以

テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ云々ト云ヘル抗拒ニ類スルノ恐レアリ
 テ事實抗拒ナランニハ之ヲ罰セサルヘカラス而シテ原案ノ旨趣ハ
 抗拒ニ非スシテ目下此事件ハ請願中ナレハ其執行ハ暫時ノ延期ヲ
 請フト云フカ如キ場合ヲ謂フ者ナレハ其意義ヲ弱ウスルカ爲メ此
 ノ如ク改メタリ第十三條中「立法ニ關シ」ノ五字ヲ削リタルハ前會
 某議官ヨリ本條ニ對シテ質疑アリシモ畢竟是等ノ贅字アルカ爲メ
 ニシテ之ナキモ本條ノ意義ハ分明ナルニ由テナリ第二十一條中「第
 三百五十五條ナル七字ヲ削リタルハ案中第十七、十八、十九條等皆
 「刑法ニ依テ云々」トシテ其何條ニ依ルヘキヲ明記セサルニ只本條
 ニ限り條目ヲ載セタルハ是レノミ其何條ニ依ルヘキ乎人ヲシテ惑
 ヒアラシムルカ如クンハ止ヲ得サレトモ他條ニ「刑法ニ依テ云々」

トアルモ其何條ニ依ルヘキ乎ノ惑ヒナキモノトセハ本條ト雖モ亦
 同一理ナラサルヘカラス而シテ前條既ニ何條ト明記セサル以上ハ
 之ヲ削リテ文體ヲ同ウスルニ如カサルニ由テナリ是レ修正ノ大畧
 ナレハ各位幸ニ之ヲ領シテ本案ニ可決アランコトヲ希望ス

○外番一番水本
成美

目下修正委員ノ一人ナル六番議官ヨリ本案修正ノ旨

趣ヲ摘述セルカ如ク本案ハ全ク原案ノ精神ト同一ニシテ字句ニ至
 テハ却テ彼ニ優ル者アリ就中其第五條ノ修正ノ如キハ大ニ其宜キ
 ヲ得タリトス蓋シ該條ハ當初成法ニ制定シタル會社ノコトヲ掲ケ
 スシテ止タ「云々請願スルコトヲ得ス」トノミアリタルヲ以テ後ニ
 「成法云々」ノ一句ヲ追加スト雖モ其追加ノ位地妥當ナラサルカ爲
 メ或ハ内閣ノ旨趣ヲ貫徹セサルヤノ恐レナキニ非サリシモ今此修

正ニシテ全ク是等ノ顧慮ヲ要セサルニ至レリ又第六條即チ原案第七條中總代人ノ數ヲ三名以下ト爲シ二名ヲ減シタルハ多衆混雜ノ恐レアルカ爲メニシテ是レ亦頗ル其宜キヲ得タリトス即チ本修正ハ本員等ニ在テモ毫モ異議アルコトナシ但萬一此案ニ對シ更ニ修正ヲ加フルカ如キ或ハ意義ニ悖ルモノハ徹頭徹尾原案ノ旨趣ヲ維持セサルヘカラス故ニ本員等ハ只管本案ニ同意ニシテ此以上修正ヲ加フルハ不同意ナリトノ意ヲ辨スルコト爾リ

○三十五番 渡邊 洪基 本案修正ノ理由ハ六番ノ辨明ニテ既ニ盡クセリト雖モ本官モ修正委員ノ一人ナルヲ以テ聊其足ヲサル所ヲ補ハントス第一條中「事件」ヲ「行政上ノ處分」ト修正シタルハ之ニ由テ立法ニ關スルコトノ請願スヘカラサルヲ明カニシ又請願ノ性質ヲ判然ナ

ラシムルカ爲メニシテ原案ハ其區別ノ得テ明白ナラサルニ由テナリ又第十九條中「論争」ヲ「抗論」トシタルハ論争ノ區域分明ナラサル爲メナリ其他六番ノ辨明ニテ餘蘊ナシト考フルヲ以テ敢テ贅言ヲ費サ・ルナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ
 全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○十四番 渡邊 清 本條ヲ議スルニ先チ聊カ陳述ヲ要スルコトアリ抑本案ニ對シテハ前會既ニ發論シ且當時議長ヨリ修正ノ意見ヲ有スル者ハ云々トノ宣告アリタルヲ以テ本官モ亦聊修正委員ニ申報シタル者アリシカ能ク其文意ヲモ採擇アリ旁々本案ハ意義文章共ニ完

備セリト思考ス然ルニ退イテ本案發表後ノ影響如何ヲ察スルニ是レ必ス人心ニ重大ナル感觸ヲ與フルナルヘシ聞ク外國ニ於テ始メテ請願規則ヲ發布シタル時ハ請願ノ數直チニ三千ノ多キニ至レリト今本案ヲ制定スルニ於テモ宜シク意ヲ此ニ注キ反覆熟考以テ他日ノ障礙ナキヲ期セサルヘカラス是ヲ以テ本官ハ本案修正ノ意見ヲ該委員ニ陳ヘタルノ後チ再三細思シテ三件ノ疑惑ヲ生セリ乃チ之ヲ内閣委員若クハ修正委員ニ質サントス

○議長 逐條質疑ヲ爲スハ慣例アレトモ全文ニ渉ル質問ナランニハ特ニ議場ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ不可ナリ因テ十四番ハ疑義ヲ有スル各條ニ就キ質疑セハ如何

○十四番 渡邊 清 本官ハ其質疑ノ答辨ニ由テ修正說ヲ提出スルト否ト

ヲトセント欲セシモ再思スルニ各條ニ就キ之ヲ質スモ亦妨ケナキニ依リ姑ラク之ヲ後刻ニ讓ラン

○議長 然リ各條ニ就テ質疑スヘシ

○書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

請願規則 調 害 行政上ノ處分ヲ

第一條 人民各曲ノ利益ニ關スル事件ニ就キ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

○三十四番 長岡 護美 本條中「利益」ヲ「利害」トシ「事件」云々ヲ「行政上ノ處分」トシタルハ聽クヲ得タレトモ「各自」ヲ「各個」ト改メタルハ其効用ヲ見サルカ如シ因テ再ヒ其説明ヲ煩ハサン

○三十五番 渡邊 洪基 各自トアレハ銘ヤノ意ニシテ乃チ總体ヲ別々ニ云

ヒタルカ如キ嫌ヒアルヲ以テ之ヲ改メタリ蓋シ字面ヨリ見レハ然
ラサルモ慣習上然ルニ由テナリ

○三十四番 長岡護美 些細ノ事ナレトモ目下辨明ノ如クシハ本官ハ未ダ

其修正スヘキ理由ヲ知ラサルナリ夫レ數人連署シテ請願ヲ爲スモ
乃チ銘々ノ利害ニ關係アルカ爲メナレハ慣習ニ依テ之ヲ看ルモ亦
妨ケナシ況ヤ各自トハ從來法律上ノ慣用語ニシテ各個トハ本官等
ノ未タ聞カサル所ナルヲヤ因テ此修正ハ舊ニ復スルヲ可トス

○三十六番 津田眞道 賛成ス器物等ニハ各個トアルニ如カサレトモ人間

ニハ各自ノ字ヲ用フルヲ可トス

○十四番 渡邊清 賛成ス故ヲニ各個ト修正シタル效能ナケレハナリ

○三十二番 野村素介 賛成

○議長 三十四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十番 三浦安 本官モ原案ノ各自トアルヲ可トスルヲ以テ三十四番

ニ同意ス

○十三番 本田親雄 三十四番ヲ賛成ス本官モ修正委員ノ説明ニ拘ハラス

此ノ如ク修正スルノ效能ナシト思考セリ

○外一番 水本成美 本員ハ旨趣サヘ貫徹セハ文字ノ少異同ハ論セサルノ

意見ナリシカ幸ニ三十四番ノ修正説アリテ問題ト爲リタル上ハ試
ニ一言ヲ呈シテ問題ノ可ナルヲ表セントス夫レ一個若クハ數個ト
云ヘル熟字ハ屢々之ヲ看ルモ各個ト云ヘルハ極メテ稀ナルヲ覺フ
彼ノ七年九月司法省甲第二十四號達書第一條ニ凡人民ヨリ官府ニ
對シ云々人民一個ノ訴訟トアルカ如キハ固ヨリ不妥ナラサルモ人

民各個トハ從來慣用ノ文字ナラサレハ冀クハ原案ノ各自ニ復セン

トヲ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ三十四番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ三十四番ノ修正說ニ決シ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二條 郡區長及戶長權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ

對スル者ハ先ツ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服

セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者

ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願ス

ルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ

對スル者ハ先ツ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警

視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服

セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿權内ノ事件ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分ニ對スル者ハ先

ヅ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコ

トヲ得

○十四番 渡邊清 此ニ内閣委員ニ説明ヲ請フ本案ハ郡區長戶長ト云ヒ

府知事縣令ト云ヒ主務卿ト云ヒ皆其職名ヲ指シタルニ特ニ太政大

臣ト云ハスシテ太政官ト記シタルハ何ソヤ顧フニ太政大臣ト云ハ

、大臣限リニテ宸裁ヲ經ルニ非スト誤解スル者アラシク恐ル、ニ依ル乎

○番一水本番成美

十四番ノ質疑ハ一理ナキニ非サレトモ十四番想像ノ如ク太政大臣ト云ハ、大臣獨リ之ヲ聞ク者ノ如キ概アリ蓋シ本案ハ郡區長戸長等ニ對スル者ト雖モ亦天聽ニ達セシムルノ旨趣ナリ故ニ内閣ニ於テモ太政官トセスシテ内閣ニ請願云々ト爲スヘシトノ說アリシカトモ從來宸裁ヲ仰ク者モ亦太政官ニ宛テ上呈セシムルノ成規ニシテ内閣ニ宛ル如キハ未タ嘗テ其例ヲ見サルヲ以テ本案特ニ太政大臣ト云ハス又内閣ト云ハスシテ太政官ト爲シタルナリ

○二十番三浦安

本條ハ言路洞開ヲ主トシ之ニ次ニ上言ノ秩序ヲ以テ

シ而シテ其汎濫ニ至ラサルノ堤防ニ供ヘタルモノナリ是レ決水ヲ防クニ先ツ之カ疏通ノ途ヲ開クト一般彼此相待テ用ヲ爲スカ爲メナルヘシ即チ其精神ハ不可ナキモ原來行政上ノ處分ハ裁判ト異ナリ成ルヘク長官ノ指令ヲ甘受スルノ秩序ナカルヘカラス何トナレハ裁判ハ惟各人ノ權利ヲ伸張スルヲ是レ主トスルニ由テナリ然ルニ本條ハ郡區長戸長ニ對スル請願モ終ニ自ラ太政官ニ上呈スルヲ得テ恰モ裁判ニ於ケル控訴上告ノ手續タルカ如シ既ニ此件ニ對シテ前會論辨アリタルヲ以テ今回ハ必然至當ナル修正ヲ得ヘシト希望シタルニ何ソ圖ラン「權内」ヲ「職務内」トシ「ニ屬シ又ハ其既ニ行ヘル處分云々」ノ字句ヲ削リタルカ如キ一二ノ修正ニ止マリ本官等ノ嘗テ最モ憂慮スル所ノ太政官ノ門前ニ請願者ノ輻湊ヲ防クヘキノ

修正ヲ見ス是レ甚タ惜ムヘキノコトナリ因テ本官ハ本案ヲ修正シテ郡區長及戸長職務内ノ事件ハ云々指令ニ服セサル者ハ郡區長戸長ヲ經テ府知事縣令ニ請願シ云々指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ヲ經テ主務卿ニ請願シ云々指令ニ服セサル者ハ主務卿ヲ經テ太政官ニ請願云々トシ以下第二第三兩項共ニ之ニ準シテ修正スルヲ可トス凡ソ民トシテ各自ノ利害ニ關シ郡區長若クハ戸長等ニ請願シ其指令ニ不服ナルカ如キ時ニ在テハ再三之ニ懇願シ猶ホ聽レスハ府知事縣令ニ請願スルモ亦是レ止ヲ得サルコトニテ從前ノ慣習ヨリ考フルモ亦當ニ然ルヘキニ本案ハ其指令ニ不服ナル時ハ直チニ去テ其上司ニ請願シ得ルノ法ナレハ其弊ヤ請願人ハ遂ニ相競テ太政官ニ輻湊セント必セリ即チ本修正ニ依リ甲官吏ノ指令ニ服セ

サル時ハ該官吏ヲ經テ更ニ乙官吏ニ請願スルカ如ク條理ヲ盡シ秩序ヲ立ル以上ハ官吏ニ於テモ亦甘ンシテ其傳致ヲ爲スヘシ而シテ若シ其傳致ノ遲緩等ヲ恐レハ更ニ之カ處辨ノ法例ヲ設ケテ三日内乃至五日内ヲ限り必ス之ヲ傳致セシムル者ト爲スモ亦難キニ非サルナリ因テ此ノ如ク修正スルヲ可トス

○十八番 東久世 通禰 二十番ノ修正說ハ後ノ煩ヲ省クノ益アルヲ以テ之

ニ同意ス

○十三番 本田 親雄 二十番ノ修正文ハ未タ妥貼ナラサレトモ其旨趣ハ動

カスヘカラサルヲ以テ之ニ左袒ス

○議長 二十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十六番 神田 孝平 二十番ヨリ本案ハ言路洞開ノ度ニ過キ遂ニ太政官門

前請願者ノ幅湊ヲ來スノ恐レアルヲ以テ郡區長戸長ヲ經テ云々府
 知事縣令ヲ經テ云々ト爲スヘシトノ修正說アリ本官モ固ヨリ幅湊
 ヲ好ム者ニ非サレトモ此ノ如ク修正セハ却テ支障アルヘシト思考
 ス何トナレハ請願ハ郡區長戸長ナリ府知事縣令ナリ其指令ニ服セ
 サル官吏ノ手ヲ經テ爲スヘシトセハ人民ニ在テハ或ハ曰ン本案ハ
 言路洞開ト云フモ又之ヲ箝制スル爲メ此ノ如キ垣塙ヲ備ヘタリト
 即チ此修正ハ右ニ與ヘテ左ニ奪フカ如クナルニ由テナリ

○十四番 渡邊清 現問題ニ不同意ナリ發議者ノ精神ハ本官モ亦感服ス
 ル所ナレトモ其修正ノ如クンハ十六番ノ所見ト同シク人民ニ怨惡
 ノ感觸ヲ與フルヲ恐ル、ナリ實ハ本官モ當初本案ニ對シテハ二十
 番ノ如キ顧慮ヲ懷キシカトモ熟考スルニ本案ノ如ク開クヘキハ充

分之ヲ開キ又制限スヘキハ他ニ充分之ヲ制限スルニ如カストセリ
 且本案實行ニ至ラハ上司ニ請願スルハ其經歷シタル官署ノ指令ヲ
 添フヘキノ成規ナルヲ以テ上司ニ於テ其指令ノ當否如何ト認ルカ
 如クンハ必スヤ其下司ニ對シテ訊問等ノ處分アルヘキナリ問題ハ
 不可ナリ

○番一 水本成美 本員等ハ本案ニ同意シ敢テ論辨セサルノ意見ナリシ
 カ目下二十番ノ修正說問題ト爲リタル以上ハ沈黙セント欲スルモ
 得サルニ至レリ元來本案ヲ制定スルハ言路洞開ノ爲メニ非スヤ然
 ルニ若シ現問題ノ如ク之ヲ改メンニハ本案ハ所謂徒法ニ屬ス看ル
 ヘシ本規則ハ條款二十一條ナルモ其眼目トスル所ハ惟此第二條ニ
 在リ然ルニ此ノ如ク本條ノ精神ヲ動スニ於テハ本規則ハ果シテ何

ノ効用カアル寧コ之ヲ廢スルニ若カス故ニ此動議ノ如キハ素ヨリ
同意者ナカルヘシト想像セシニ計ラサリキ既ニ二名ノ賛成者アリ
テ問題トナラントハ抑此修正ノ如ク郡區長戸長ニ請願云々指令ニ
服セサル者ハ郡區長戸長ヲ經テ府知事縣令ニ請願シ云々指令ニ服
セサル者ハ府知事縣令ヲ經テ主務卿云々トシ其不服ノ指令ヲ爲シ
タル官吏ノ手ヲ經テ上司ニ請願スルハ恰モ己カ書簡ヲ敵ニ託シテ
他人ニ傳致セシムルト一般是レ豈言路洞開ノ旨趣ニ協ヘリト云ハ
ンヤ眞ニ有名無實タルヲ免レサルナリ請フ顧ミテ今日郡區長及戸
長ノ情態如何ヲ見ヨ己レ平生知ル所ノ者ノ地所ナリ家作ナリ其賣
買ニ就キ奧印ヲ請フ者アルモ時トシテ猶ホ之ヲ肯セサル等ノ弊ア
ルニアラスヤ此時ニ當リ其指令ニ服セサル者ノ手ヲ經テ請願スヘ

シト云フハ那ノ越訴律ノ再興ヲ望ムカ如シ夫レ該律ハ開化ノ時勢
ニ適セサルニ由リ明治六年八月十二日ヲ以テ之ヲ廢セリ六年ニシ
テ猶ホ然リ況ヤ漸次開明ニ進歩スル今日ノ法案ヲ議スルニ當リ復
タ其法ニ據ラントスルカ如キハ奇モ亦甚シト云フヘシ但始メヨリ
本案ヲ設クルニ不同意ナランニハ目下ノ修正說モ亦宜ヘナリト雖
モ既ニ之ヲ設クルノ必用ナルヲ知り之ニ同意シタル議官ニシテ此
說ヲ爲シ其眼目ヲ拔ントスルハ實ニ解スルヲ得サルナリ

○二十番

三浦安

秩序ヲ經ヘシト爲ス本官ノ修正說ニ對シテ十六番十
四番及番外一番ヨリ駁撃アリ而シテ其駁撃タル皆同一ノ點ニ出テ
番外一番ノ說ニ至テ一層其旨趣ヲ擴充シタルヲ以テ之ヲ反駁セハ
他ハ反駁セスシテ可ナランカ今反對論者ノ說ヲ聞クニ要スルニ本

案ハ言路洞開ノ法案ナルニ順序ヲ經ル者トセハ洞開ノ精神ニ悖戾
 スルヲ以テ寧ロ之ヲ廢スルニ若カスト云フニ在リ實ニ怪訝ニ堪ヘ
 サルナリ本官ハ以爲ラク一順序ヲ經テ官署ニ請願スル者トスルモ
 三日乃至五日間ヲ費スニ過キス且自ラ遠隔ノ地方ヲ跋涉シ來テ請
 願セシメサルモ敢テ言路ヲ壅塞スト云フヘカラヌ唯其開クヘキハ
 之ヲ開キ上天聽ニモ達セシムヘシト雖モ之カ爲メ秩序ヲ設ケテ之
 ニ據ラシムルニ於テ何ノ支障アラント然ルニ論者ノ援引セシ那ノ
 越訴律ノ如キハ判然行政裁判ノ辨別ナキ時ノコトニシテ且彼法ハ
 裁判ニ類スルヲ以テ之カ爲メ自ラ主角ヲ生シ上下阻隔シ下トシテ
 上ニ服スルノ心ヲ減殺スルノ恐レアルモノナリ而シテ此ハ裁判ニ
 非ス固ヨリ行政ノ事ナレハ宜シク秩序ヲ經テ請願セシムヘシ若シ

論者ノ如クンハ寧ロ一蹴シテ太政官ニ直願ヲ許スニ若カサルナリ
 其指令ニ服セサル官吏ノ手ヲ經テ請願セシムルハ恰モ敵ニ託シテ
 書翰ヲ他ニ寄スルカ如シトノ比喻ニ至テハ實ニ意外千萬ナル駁説
 ト云フヘシ抑那ノ裁判ハ身分ヲ管セス惟事理曲直ヲ是レ審判スル
 者ナレトモ行政ノ如キハ斯ル不人情ナル者ニ非ス故ニ郡區長等ニ
 於テハ之カ認可ヲ欲スルモ規則上然ル能ハスシテ己ヲ得ス認可セ
 サル者等アリ然ルニ其官吏ノ手ヲ經テ更ニ上司ニ請願スルノ規則
 ナランニハ乃チ該官吏ヨリ上司ニ對シテ自己之ヲ認可スル能ハサ
 リシカ成ルヘクハ認可アランコトヲ冀フトノ意ヲ併セテ具申スル
 カ如キコトモ或ハ之アルヘシ蓋シ上ノ下ヲ視ル猶ホ子ノ如クナレ
 ハ下ノ上ヲ視ル猶ホ父ノ如クナルヘシ苟モ郡區戶長等ニシテ人民

ヲ愛撫セサル者ハ滿天下之レアラサルナリ既ニ然ラハ人民ニシテ
 豈之カ手ヲ經ルヲ嫌ハンヤ然ラハ則チ郡區戸長等モ亦甘ンシテ其
 請願ノ傳致ヲ爲スヤ疑ノ容ルヘキナシ是レ所謂君民一致ニシテ若
 シ其レ上下此心ナクンハ皇國ハ忽チ壞亂スヘキニ由リ此ノ如キ官
 吏ハ宜シク其職ヲ免スヘシ畢竟一請願ノナラサルカ爲メ官吏ヲ
 敵視スルト云フカ如キハ則チ上下ノ心ヲ察セサルノ說ナリ豈主務
 卿地方長官及郡區戸長ニシテ特ニ人民ノ爲メニ計テ深切ナラサル
 者アルヘケンヤ本官ハ今日我政府ニシテ此ノ如キ不人物ヲ採用ス
 ルカ如キコトハ萬々之ナキヲ信スルナリ故ニ請願ヲ爲スニ秩序ヲ
 經ルヲ不可トスルノ理ハ決シテ之ナク且此ノ如クセハ請願者ノ太
 政官門前ニ輻湊スルカ如キ恐レト浮薄ノ意ヲ以テ有司ヲ外ニシ強

テ請願スルカ如キ弊ト兩ツナカラ之ヲ絶ツヘシト思考スルナリ

○三十六番 津田真道

本案ハ前會本官ノ建議ニ依テ五名ノ全部付託修正
 委員ヨリ提出ナリタル者ニシテ本官ハ之ヲ以テ完全無疵復タ修正
 ヲ要セスト思考シ内閣委員ニ在テモ亦同感ナリト聞キタルニ今ニ
 十番ヨリ原案修正案共ニ曾テナキ所ノ說ヲ提起シ且曰ク行政事務
 ハ裁判事務ト異ナリ秩序ヲ設クルコト最モ大切ナルニ依リテ此ノ
 如ク修正セサルヘカラスト若シ原案又ハ修正案ニ郡區長等ノ指令
 ニ服セサル者ハ直チニ太政官ニ請願スヘシトアランニハ乃チ秩序
 ナシト云フ可キモ本案ハ讀テ字ノ如ク郡區長及戸長職務内ノ事件
 ハ郡區長戸長ニ請願スヘシ郡區長戸長ノ指令ニ服セサル者ハ府知
 事縣令ニ請願シ云々ト粲然秩序ヲ掲ク何ソ其レ之レナシト云ン又

二十番ハ曰ク郡區戸長等ニシテ人民ノ請願ヲ傳致セサル者ハ萬之ナキノ理ニシテ政府モ亦此ノ如キ不人物ヲ舉ケサルヤ明カナリ然レトモ若シ之アラシニハ宜シク直チニ其職ヲ免スヘシト蓋シ本官ノ錯記ナルヤ知ラサレトモ今日ノ戸長ハ皆人民ノ公選ニ係ル者ト覺エタリ果シテ然ラシニハ投票ノ多數ニ依リテ命スヘキ者ナレハ官府ヨリ之ヲ舉ル能ハス又特ニ官府ノ都合ヲ以テ之ヲ退クル能ハサルナリ且天下ノ戸長皆盡ク惡人ナルニ非サルモ奧印ヲ拒ム者ノ如キハ本官モ亦往々之アルヲ傳聞セリ又私益ニ關シテ請願スルハ人民政權上ノ一トシテ歐米各國ニ於テモ之ヲ許セリ宜シク其所以ヲ考ヘサルヘカラス蓋シ爰ニ一己人ノ郡區長若クハ戸長ニ請願シテ其指令ニ服セサルハ則チ該郡區長若クハ戸長ト行政上ノ意見ヲ

異ニセシニ是レ由ルナリ故ニ之カ上ニ在ル所ノ府知事縣令ニ請願シ而シテ又其指令ニ服セサル時ハ内務卿ニ請願シ遂ニハ天聽ニ達スルヲ得ルハ是レ前ニ云フ如ク請願ハ政權上ノ一部分ナレハナリ番外一番ノ敵ニ託シテ書ヲ寄ストノ說ハ少シク激ニ過キタルモ前陳ノ如ク本官モ亦其實ナシトハ信セサルナリ是等ノ理由ヲ以テ本條ハ勿論其他總テ本案ノ儘議決ナラシコトヲ欲スルナリ

○五番 鍋島

本官ハ現問題ニ同意スル能ハス二十番ノ論旨ハ一理ナ

キニ非サレトモ原來本案ハ言路洞開ノ旨趣ニ成レル者ニシテ秩序ヲ設クルハ第二段ノコトナリ且番外一番ノ說ハ稍ヤ其極點ニ趨リタルカ爲メ二十番ヨリ又縷々ノ駁說アリシカ熟考スルニ到底二十番ノ修正ノ如クシハ殆ント從來ノ慣行ト同一ナレハ之ヲ以テ言路

ヲ開キタリト云フヘカラス加之今地方ノ實況ヲ考フルニ人民ヨリ
郡區長等ニ請願シ其事ノ採用ナキニ於テハ該官吏ノ手ヲ經スシテ
縣令ニ對シ直チニ請願スルコト又往々之アリ是レ何トナレハ郡區
長等ノ抑制スル所アルヲ恐レテナリ即チ現問題提出ノ精神ハ甚ダ
嘉尙スヘキモ若シ之ニ決セハ言路洞開ニ非スシテ却テ壅塞ノ結果
ヲ看ルヘシ又本案ハ言路洞開ノ主義ナレハ之ヲ擴充スルハ素ヨリ
望ム所ナレトモ我今日ノ適度ヲ考フレハ本案ニテ過不及ナキヲ信
スルナリ

○二十番

三浦安

三十六番ヨリ戸長ノ任免ニ就キ縷々ノ駁議アリ本官
ハ陳述中郡區長等ト列子テ之ヲ說キタルヲ以テ此ノ如ク聞エタル
ナルヘシ說ノ如ク戸長ハ公選ニ成ル者ナリ然ラハ彌人民ト讎敵ノ

如キ思ナキヤ知ルヘキナリ且前ニモ辨スル如ク裁判ノ順序ト行政
ノ順序トハ甚ダ異ナリ彼ハ爭ヨリ生スル者ナレハ時日ヲ畫シテ迅
ク之ヲ判決セザレハ益憤怒ノ念ヲ劇ウセシムヘキモ是ハ彼ノ如ク
時日ヲ限リテ急決スルヲ要セサル者ナリ又五番ヨリ現問題ノ如ク
ナレハ言路ハ洞開ニ非ス却テ壅塞ノ恐レアリトノ駁撃アリ蓋シ秩
序ヲ設クルカ爲メ幾分カ其傾キアリト爲スモ之カ爲メ敢テ壅塞ニ
陥ルノ憂ナシ即チ此修正タル猶ホ水ヲ塞カントセハ暫ク其水ヲシ
テ他ニ疏通ノ途ヲ開クガコトシ是レ通スルハ塞クノ法ナレハナリ
又三十六番ハ本案ト雖モ決シテ順序ナキニ非スト云フ其レ然リ順
序ナキニ非サルモ本官ハ今一層ノ順序ヲ必用トスルニ在リ且番外
一番ノ云フ如ク郡區長等ト人民トハ決シテ讎敵ノ比ニ非ス寧ロ父

子ノ親アリトス乃チ兄弟相争フニ方リテハ父母之カ裁制ヲ爲スト
同情ナルヘケレハ傳致ヲ拒ム等ノ顧慮ハアルヘカラサル事ナルヲ
以テ宜シク一層ノ順序ヲ設クヘシ而シテ此ノ如クスルモ之カ爲メ
本案ノ精神ヲ害スルノ理ハ萬々之ナキヲ信スルナリ

○外番一水本番成美 本員ハ既ニ沈黙ノ自由ヲ守ラント爲シタレトモ二十
番ノ駁説ニ對シテハ本官前説ノ旨趣ヲ再辨セサルヲ得サルニ至レ
リ本員ハ素ヨリ言路洞開ノ爲メニハ順序ヲモ履マシメスシテ可ナ
リト爲スニ非ス本案ニ遵ハシムヘシト云フニ在リテ本案ト雖モ讀
テ字ノ如ク順序アルハ明白ナリ又二十番ノ説ハ天下ノ官吏ヲ以テ
皆盡ク賢良ノ人ノミト見タル旨趣ニシテ甚タ結構ナルコトナリ而
シテ本員ト雖モ亦全ク然ラスト思惟シタルニハ非サレトモ現ニ不

良ノ郡區戸長等又之アルヲ見聞シタルニ由テ前刻ノ如ク陳述シタ
ルナリ然ルニ其説ノ不知不識過激ニ涉リタルヲ以テ二十番ヨリモ
亦稍ヤ過激ノ駁説アリ然レトモ其駁説ノ旨趣ハ本員全ク之ヲ了解
セリ説ノ如ク現問題ノ通り順序ヲ設クルモ三日乃至五日ヲ經ハ他
ノ官署ヘ移スニ至ルヘキモ是レ大ニ本案ノ精神ヲ害シ特ニ開カン
トスル言路モ依然トシテ塞閉ノ看ヲ爲スニ至ルヘシ是レ即チ本員
並各位ニ於テ喋々其不可ナルヲ辨スル所以ナリ但太政官門前請願
者ノ群集ヲ恐ル、トノ説アレトモ苟モ請願ノ途ヲ開キタル以上本
規則ニ循テ來ル者ナランニハ萬一此ノ如キコトアルモ亦止ヲ得サ
ルナリ

○十四番 渡邊清

本官ノ現問題ニ不同意ナルハ過刻辨シタルカ如シ而

○シテ本案ノ太政大臣ト記ルサスシテ太政官ト載セタルカ如キハ妥當ナラスト考フルヲ以テ現問題ノ成立如何ニ拘ハラス後刻之カ修正説ヲ提出セントス依テ豫メ之ヲ陳フ

○六番英作 麟祥 現問題ニ就テハ番外一番及各議官ヨリ喋々論辨アリタルヲ以テ必スヤ多數ノ賛成ヲ得サルヘシ原來本案ハ過刻モ説明シタル如ク全ク原案ノ精神ニ異ナラス本條ノ修正モ亦惟圭角アル文字ヲ去リ平易ノ文字ニ改メタルノミニシテ要スルニ此修正タル言路洞開ヲ名トシテ漫ニ事ヲ起ス等ノ弊害ナカラシメンヲ欲シテナリ目下二十番ノ修正説モ其精神ハ同一ナレトモ却テ反對ナル結果ヲ生スルノ恐レアルハ本官モ亦信スル所ナリ那ノ各個ヲ各自ト改メタルカ如キハ本案ノ精神ニ關係ナキニ依リテ敢テ異議ヲ唱ヘサ

リシカ現問題ノ如クンハ番外一番ノ説ノ如ク寧口全ク之ヲ廢スルニ若カサルナリ本官ハ修正委員ノ一人ナルモ本案ノ精神ヲ害セス字句ノ圭角ヲ去ル如キ修正ナランニハ之ニ反對セサルハ勿論却テ賛成ヲ表スヘケレトモ現問題ハ前説ノ如キ支障アルヲ以テ同意スル能ハサルナリ

○三十番楠田 英世 本官ハ全ク本案ト同意ナリ熟考スルニ本規則ハ往年審理局設置ノ時制定セサルヘカラサル者ニシテ當時其設ケナカリシ以上今之ヲ設クルハ眞ニ要用ナリト思考ス本官嘗テ該局ノ委員トナリテ其訴ノ興ル所ト事務ノ妨碍トヲ調査シタルコトアリ而シテ其訟ノ内務卿ヲ經スシテ直チニ太政官ニ出ス如キハ其當ヲ失スル者ナリト認メタルモ其組織ニ容喙スルノ權ナキニ由リテ敢テ之

ヲ論スル能ハサリキ即チ此ノ如キ規則ヲ設ケテ順序ヲ追ヒ上言スル者トシテ言路洞開ノ精神ヲ鞏固ナラシムルハ甚タ要用ナリ爰ニ歐洲ニテハ上下議院アリテ議案ノ實地調査ニ從事スルモ本邦ニテハ惟元老院アルノミニシテ且其調査ノ法ナク恰モ手足ナキカ如クナレハ成ルヘク原案ヲ採ルニ若カス而シテ現問題ニ就テハ朝來數回ノ討議アリテ今方ニ午時ナラントスルヲ以テ最早速ニ取決アラシコトヲ希望ス

○二十番 三浦安 反對論者ノ説ハ概シテ現問題ノ如クスル時ハ言路不洞開トナルヘシト云フニ過キス是レ郡區戸長等ト人民トノ間互ニ圭角ヲ生シテ甚シキハ番外一番ノ説ノ如ク彼此讎敵ノ思ヒアリトノ一念胸中ニ蟠リ所謂猜疑心ノ消散セサルニ由ル者ニシテ縦ヒ戸

長等ノ奥印ヲ拒ムコトアルモ今日ノ人民ハ決シテ之ニ默從セス又原來拒ムヘキ者ニ非サルナリ乃チ現問題ニ決スル以上ハ指令ハ幾日限其上司ヘノ傳致ハ幾日限トノ規則モ自ラ成立スルニ至ルヘシ畢竟順序ハ如何スルモ前ニ陳ル如キ一點ノ猜疑ヲ去リテ虚心平氣以テ之ヲ考フル時ハ論者ノ憂フル如ク反對ノ結果ヲ看ルノ恐レナキハ明瞭ナリ反對論者ノ説ハ未タ以テ現問題ヲ駁スルニ足ラストス

○三十五番 渡邊洪基 現問題ノ成立ハ實ニ案外千萬ニシテ此ノ如キハ忽チ消滅スヘシト思考シタルニ今ニシテ猶ホ決セサルモ亦案外千萬ナリ抑發議者ノ旨趣ハ官民間ノ調和ヨリ出テ此ノ如キ究屈ナル修正ヲ提出シタルニ在ルモ此修正タル却テ反對ノ結果ヲ看ルニ至ル

ヘキハ往々駁撃論者ノ口ニ上ルカ如シ本官モ亦聊其所以ヲ陳述セ
 シニ原來言路洞開ト云フモ素ヨリ徒ラニ多事ヲ好ムニ非ス上意下
 達下情上達ヲ欲シテナリ又秩序ヲ經サルヘカラサルハ自然ノ道理
 ニテ本案ト雖モ亦之ヲ經サルニ非サルナリ尚ホ事ヲ爲スニ方リ代
 理人ヲ選ンテ之ニ其事ヲ執ラシム若シ彼我其意見ヲ異ニスル時ハ
 長上ノ者之ヲ處理ス是レ則チ調和ノ道ナリ夫レ人民ヨリ郡區戸長
 ニ宛テ請願書ヲ出シ其指令ニ不服ナル時自ラ地方長官ニ請願シ該
 長官モ其指令ヲ適當ト認メタル時ハ其請願者ニ在テ異議ナカルヘ
 キモ若シ郡區戸長ノ手ヲ經ルニ非サレハ上司ニ請願スルヲ得サル
 者トセハ長官ニテ偶マ其指令ヲ適當ト認メタル時ハ其請願者ニ在
 テ異議ナカラシ乎恐ラクハ郡區戸長等自己ノ意ヲ具申シ遂ニ事此

ニ至レリトノ感覺ヲ生スルヤ疑ヒナシ蓋シ人心ハ各其面ノ如ク異
 ナル者ニシテ二人相會セハ其意見ノ同シカラサルハ社會ノ定數ナ
 レハ當該ノ人ニ就テ其當否ヲ質サ、ルヲ得ス然ルニ前述ノ如ク一
 方口ナランニハ人民ノ位地ニ在テハ言路壅塞ト爲スヤ知ルヘキナ
 リ約スルニ前ニモ述ル如ク本案ト雖モ秩序ニ關セス漫ニ請願ヲ許
 スニ非ス若シ問題ノ如クンハ必ス反對ノ結果ヲ看ルノ恐レアリ此
 ノ如キハ寧ロ本規則ハ設ケサルノ優レルニ若カサルナリ

○二十番^{三浦}

^安

現問題ニ就キ喋々駁議アルモ只本官ノ憂慮スル所ハ

本案ノ儘ナランニハ一旦郡區長等ニ請願スルモ行ハレサレハ直チ
 ニ地方長官ニ請願シ又去テ内務卿ニ請願スルカ如キ惡弊ヲ生スル
 ヲ恐ル、ニ由テナリ蓋シ現ニ郡區長等ヲ外ニシテ直チニ府知事縣

令ニ願書ヲ呈スルカ如キ弊害ノ多キハ本官嘗テ某地方官ニ聞ク所ナレトモ今之ヲ敷陳セハ前ニ番外一番ノ僅々戸長等ノ不人物アルヲ引証シテ一般爾リト痛撃セシト相類スルヲ以テ之ヲ措キタレトモ實ニ是等ノ事アルナリ且健訟ノ風アル今日ナレハ秩序ヲ設ケサレハ其弊害底止スル所ナキニ至ルヘシ猶ホ之ヲ細說セハ今日地方ニ民權家ト稱シ何ト稱スルノ輩アリテ動モスレハ郡區長ハ何人ソ縣令ハ何人ソ余他日彼地位ニ立ハ云々杯ト揚唱シ又是等ノ輩出府ノ際適マ大臣參議等ニ面謁ヲ得テ歸ルアラハ余ハ東京ニ行テ某參議ニ面シ某大臣ニ謁シテ云々ト聲言シ其弊ノ及フ所人ヲシテ郡區戸長ハ勿論縣令ト雖モ亦之ヲ敬セサラシメ諸般ノ事皆盡ク人民ヨリ直チニ太政官ニ訴ント欲スルニ至リ之カ爲メ氣概アリテ充分其

職ヲ盡サントスル者モ遂ニハ地方官ノ任ヲ解キ又之ニ就テ欲セサルノ勢ヲ來ス故ニ秩序ヲ設クルハ實ニ要用ニシテ特ニ注意セサルヘカラス然ルニ之ヲ設クルニ至テハ言路洞開ノ旨趣ニ悖戾スヘシトノ說ハ全ク猜疑心ヨリ生スルノ外他ニ其出所ヲ知ラサルナリ要スルニ他日國會開設ノ時ニ至ラハ兎モ角今日ニ在テハ成ルヘク行政ノ順序ヲ經ルコト、爲スニ如カス否ラサレハ太政官ノ混雜ハ勿論地方官ニ在テモ亦困難ナルヘキハ言ヲ待サルナリ

○三十四番長岡護美 二十番ノ修正說ニ對シテ陸續駁撃アルモ未タ事實ニ就キ適切ナル說アルヲ聞カス抑發議者ハ其說ノ如クセハ秩序モ立チ言路モ洞開スヘシト論スレトモ本官ハ以爲ラク是レ惟無用ノ錯雜ヲ醸スニ過キス何トナレハ一旦指令シタル官吏ノ手ヲ經ルコ

ト、セハ再度ノ請願ハ之ヲ例ハ、前指令當否ノ取決ヲ請フニ似タルヲ以テ之カ傳致ノ要求ヲ受ケタル官吏ニ在テハ之ニ對シテ指令ノ意ヲ採テ論辨シ又時トシテハ傳致ヲ拒ム等ノ事アリテ之カ爲メ却テ抑制ノ弊ヲ生スレハナリ但是等ノ官吏ハ惟其傳致ヲ爲スノミニシテ之ニ對シテ毫モ自己ノ意見ヲ陳ル能ハストセハ恰モ木偶人タルニ過キス若シ意見ヲ述ル者トセハ前說ノ如シ是レ互ニ軋轢ヲ生スルモノトス廻チ本案ニ可決アラシコトヲ希望ス

○議長 時午ヲ過ルヲ以テ喫飯ノ爲メ暫時散會スヘシ

午後零時五分閉場

午後第一時開場

退席

十五番

伊丹重賢

退席

廿三番

岩下方平

○議長 午前ノ續會ヲ開ク二十番ノ修正說ニ就キ發議スヘシ

○三十六番 津田具道 二十番修正說ノ旨趣ハ現時輕躁浮薄ノ輩多ク且健

訟ノ風アルヲ以テ之ヲ制限セント欲スルニ在レハ其精神ハ固ヨリ嘉スヘキモ本案ハ動カスヘカラサルナリ且發議者ハ家庭中ノ事ヲ引テ曰ク兄弟相爭フ時ハ父母ニ其裁制ヲ請フ云々ト想フニ是レ官吏ハ父母ナリ人民ハ子弟ナリトノ意ニシテ各省卿ヲ始メ郡區戶長等ニ至ル迄皆堯舜其人ノ如キ者トノ看ヨリ生スル說ナルヘケレト今日ノ時勢ハ甚タ之ニ異ナレリ是レ本官等ノ現問題ニ對シテ異論アル所以ナリ蓋シ說ノ如ク兄弟相爭フ時ハ父母之ヲ裁スルノ外ナ

シ而シテ論者ハ若シ其兄弟ニシテ父母ノ裁判ニ服セサル時ハ之ヲ
 祖父母ニ訟フヘシトノ意乎本官ハ以爲ラク此請願ノ權ハ政權ノ一
 ニシテ夫ノ選舉權及被選舉權ト同シク人民固有ノ者ナレハ人民ト
 地方官等トハ父子ニ非ス乃チ兄弟ノ關係アルモノトス故ニ叔兄ナ
 ル郡區戸長ノ聽カサル時ハ仲兄ノ府知事縣令ニ訟ヘ府知事縣令ノ
 聽カサル時ハ伯兄ノ内務卿ニ訟ヘ内務卿ノ聽カサル時ハ父ノ太政
 官ニ訟ヘテ可ナリ是レ郡區戸長ナリ府知事縣令ナリ内務卿ナリ皆
 人民ト同一ノ政權ヲ有スルニ由テナリ但シ往古ハ人民ニ政權ヲ付
 與セス今日ト雖モ國會ノ未タ開カレサルヲ以テ人民參政ノ權ハ二
 十三年ノ後ニアラサレハ之ナキニ似タルモ既ニ府縣會ヲ興シテ之
 ニ幾分ノ權ヲ付與シ府知事縣令ノ下付シタル議案ニ對シテ充分反

對ノ意見ヲモ陳ルヲ許シタレハ則チ地方官ト人民トハ父子ニ非ラ
 スシテ兄弟ノ關係アリトス其レ此ノ如ク既ニ政權ノ幾部分ヲ割テ
 人民ニ付與スルノ時勢ニ達シタル今日ナレハ其人民ヲシテ那ノ父
 母ノ兒童ヲ制御スルカ如ク惟命是レ從ハシムルハ固ヨリ能ハサル
 モノトス是レ時勢ノ變遷ニシテ人民ノ心終始幼稚ナランニハ國ノ
 富強ハ得テ望ムヘカラサルナリ要スルニ今日時運ニ際シテハ本案
 ハ動カスヘカラストス

○二十番^{三補}
 安

今三十六番ヨリ本官ノ辨論中父子云々ノ引例ヲ執テ
 大旨趣ノ如ク駁撃アリタレトモ父子云々ハ惟是レ順序アルノ比喩
 ニ陳ヘタル迄ニシテ父子ト見ルモ兄弟ト見ルモ是等ハ素ヨリ本官
 ノ深ク論スル所ニ非サルナリ又說ノ如ク府縣會ニハ幾分ノ政權ヲ

付與シタレトモ一般人民ニハ未タ付與シタルニ非ス且請願ハ人民各自ノ利害ニ關スル事件ヲ上言スル者ナレハ政權トハ同一視スヘカラサルナリ而シテ今日是等ノ規則ヲ制定スルハ漸次立憲政體ニ赴ントスル豫備ニシテ即チ時勢ニ應スル者ト云フヘシ又某論者ハ本官修正ノ如クセハ言路洞開ニ非ス壅閉ナリト云フモ決シテ然ラストス本官ハ止タ一層ノ秩序ヲ増サント爲スニ過キサルノミ説ノ如ク郡區長等ト人民ト一時相背ケル者アルモ終ニハ相親ムヘケレハ此ノ如クスルモ壅塞ノ憂ハ萬々之ナシ又午前三十番ノ論說中歐洲ニハ上下議院アリ云々又元老院ハ下ニ遠ク且手足ナシ云々トノ語アリト覺エタリ之ヲ上院ト見ハ下院ナキ間ハ或ハ下ニ遠シト云フヲ得ヘキモ夫ノ府縣會ナル者アリ是レ成法ニ制定シタル公會ナ

レハ其性質ハ相同シカラサルモ即チ氣脈ノ通シタル者ナリ三十番ハ或ハ是等ヲ以テ下ニ遠シ云々ノ説ヲ爲シタルニ在ルヘケレトモ請願ハ一人一個ニ關スル者ナレハ彼ト併論スルハ太々其當ヲ得サルナリ

○三十番

楠田英世

本官ハ最早沈黙ノ自由ヲ守ラント欲シタレトモ二十番ノ誤解ヲ來シタル以上ハ辨セサルヲ得サルニ至レリ本官我元老院ノコトヲ説キタルハ專ラ其組織上ニ關セリ爰ニ其主意ヲ詳説セハ議案ヲ議スルハ事實ノ調査ヲ以テ一大緊要事件ト爲ス然ルニ本院ニハ此事ノ爲ス能ハサルカ爲メ嘗テ頗ル錯誤ヲ生シタルニ依リ本官等之ヲ調査局員ノ數名及「ボアソナード」ニ質シタルニ歐州諸國ニ於テハ皆此事實調査ナル法アリテ縦ヘハ租稅ニ關スル議案ノ

下付アリタル時ハ先ツ當該官吏ニ事實ノ景況ヲ問ヒ又其調査ヲ託シ而シテ後チ之ヲ議スト云フ即チ本院ニ在テモ縦ヘハ其議案ノ米穀ノ時價ニ關スル者ナランニハ議官ト雖モ皆盡ク其事ニ通曉シタル者ノミニ非サレハ則チ之カ事實調査委員ヲ作り農商務省ナリ何ナリ其路ニ當ル官衙及會社ニ派遣シテ之ヲ調査セシメサルヘカラス而シテ今日本院ニ其法ナキハ是レ本官ノ下ニ遠シト云ヒ又手足ナシト云フ所以ニシテ又以テ先ツ主務省ニテ起草シタル議案ヲ採ルニ如カスト爲ス理由ナリ

○二十番^{三浦安} 三十番ノ說ハ問題ニ對シテ太タ無用ナルモノトス因テ之ヲ辨セン

○議長 二十番ニ告ク本會ニ於テハ發言ノ數ニ制限ナキヲ以テ幾回之ヲ爲スモ固ヨリ妨ケナシト雖モ各位主張ノ旨趣ハ既ニ充分議場ニ貫徹シタリト考フレハ今復タ之ヲ陳ルニ於テハ成ルヘク簡單ヲ主トシ且餘波ニ涉ラサルヲ勤ムヘシ目下三十番ノ說ノ如キ既ニ餘波ニ涉ラスト云フヲ得サルナリ

○二十番^{三浦安} 本官モ亦三十番ノ說ハ餘波ニ涉リテ無用ナリト考フルヲ以テ今之ヲ辨セント欲シタレトモ議長ニ於テ既ニ同様認定ナリタル以上ハ復タ之ヲ贅セサルナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン二十番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ二十番ノ修正說ハ消滅ス

○十四番渡邊清

本官ハ爰ニ本案發布後人民ノ感覺如何ヲ熟考スルニ本條中郡區長戸長ト云ヒ府知事縣令ト云ヒ主務卿ト云ヒ皆官名ヲ掲ケタルニ太政大臣ト云ハスシテ之ヲ太政官ト載セタルハ甚タ不備ナルヲ覺フ蓋シ太政大臣トセハ請願人等大臣ノ私邸ニ輻湊スルヤヲ恐ル、ニ在ル乎若シ其官名ヲ掲ケタルカ爲メ其私邸ニ群集スル者トセハ主務卿府知事縣令等ニ於ケルモ均シク一ナリ且官名ヲ記スルモ其私宅ニ於テ公事ヲ辦理セサル如キハ人民モ亦已ニ解得セリ加之太政官ト掲ケル時ハ人民ハ却テ疑ヒヲ生シテ曰ン是レ私邸ニ到ルノ恐レアルヲ以テ然ルナリ書記官ヲシテ隨意ニ其事ヲ理セシムルカ爲メ然ルナリト即チ本條中「太政官」ノ字ハ盡ク太政大臣ト修正シテ前後其文ヲ一ニスルヲ可トス猶ホ其餘意ハ問題ト爲

ルヲ俟テ更ニ之ヲ辨スヘシ

○議長 十四番ノ修正說ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○三十四番長岡護美 本條中一字ノ修正ヲ加フヘキ者アリ「指令ニ服セサ

ル云々」服ノ字是レナリ蓋シ不服服從等ノ字ハ裁判上ノ用語ナレハ本案ノ如キ情實ヲ訴フル者ニ之ヲ使用スルハ妥當ナラサルナリ因テ本條中「服セサル云々」ヲ安セサル云々ニ改ムルヲ可トス此ノ如クセハ裁判ト行政トノ區別モ亦判然スヘケレハナリ

○議長 三十四番ニ間フヤス。ン。ス。ルトハ何ノ文字ヲ用フルノ意乎

○三十四番長岡護美 安ノ字ナリ

○二十番三浦安 賛成ス深ク字義ヲ論究スルニ於テハ服安孰レカ當レ

ルヲ知ラサレトモ概シテ服ト云ハ、強ク安ト云ハ、弱ク聞ユルノ

差アリ而シテ本案ハ成ルヘク圭角ナキ文字ヲ尙フニ依リテ之ヲ改
ムルヲ可トス

○議長 三十四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外二番 井上 三十四番修正説ノ如ク服ヲ安ニ改ムルニ於テハ二箇
ノ支障アリト考フルヲ以テ之ヲ辨セン第一字義ニ適セス何トナレ

ハ安ノ字ハ貧ニ安シ道ニ安スル等道德上ノ語ニシテ未タ指令ニ安
スト云フコトアルヲ聞カサレハナリ第二事理ニ適セス何トナレハ
人民ハ郡區長等ノ指令ニ對シテハ從順ナラサルヘカラヌ然ルニ猶
ホ之ニ對シテ請願スルハ重大ナル理由アルニ由ル者ニシテ冥々ノ
間僅ニ不安ヲ懷ク如キ輕微ナル事故ニ出ル者ニ非サレハナリ即チ
本案ニ可決アラシコトヲ希望ス

○三十五番 渡邊 洪基 本官モ現問題ニハ不同意ナリ實ハ本案ノ如ク服セ

サル時ト云フモ未タ妥當ナラスト思ヒタレトモ是レ満足セサルノ
意ニシテ甘心甘服ノ字モ亦用ヒ難ク而シテ他ニ好文字ナキニ依リ
先ツ原案ニ從ヒシナリ故ニ若シ好字面アランニハ之ニ左袒スヘケ
レトモ安ンスルト云フノ不安ナルハ目下番外二番ノ説ノ如クナル
ヲ以テ本官モ亦之ニ安セサルナリ

○三十四番 長岡 護美 番外二番ヨリ安ノ字ハ道德上ノ語ニシテ法律上ノ

語ニ非ス云々又輕微ノ事由ニ就キ請願スヘキ者ニ非ス云ヤトノ駁
議アレトモ本官ハ請願者ノ心ニ安セスト云フノ意ニ依テ該字面ヲ
擇ヘリ且輕微ノ事ト雖モ亦之ヲ請願スルニ於テ敢テ不可ナシト思
考スルナリ

○六番 箕作麟祥

本官ハ前ニ陳述セシ如ク平易ニシテ善ク原案ノ旨趣ヲ貫徹シ得ル修正ナランニハ之ニ抗セス却テ忽チ賛成ヲ表スルノ意ナリ爰ニ服ノ字ハ控訴上告手續中亦載スル所ノ者ニシテ圭角アル字面ナルヲ以テ修正委員中既ニ種々ノ論辨アリシカトモ之ニ代フル好文字ナキニ由リテ遂ニ原案ヲ採レリ而シテ安ノ字ニ改シ乎目下番外二番ノ説ノ如ク道德上ノ語ニシテ安當ナラス尙ホ奇異ノ見解ヲ下セハ此指令ハ餘リ都合能シ恐ラクハ官吏ノ過誤ナラント請願者ノ心ニ於テ安セサルヲモ云フ者ノ如シ乃チ服ノ字ハ嚴然タル文字ナルモ事實然ルニ在レハ寧ロ可ナリトス安ノ字ハ穩當ナラサルナリ

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ三十四番ノ修正説ニ同意者ハ

起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ三十四番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ本案ノ決ヲ取シ之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第三條 凡ソ請願ハ請願書ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

○二十番 三浦安 本條中「官署ノ求メ云々」以下渾テ削除スヘシ原來請願者ハ成ルヘク口ヲ開カント欲スルヲ以テ官吏ヨリ要ムル時ニ方

リテ開陳スルハ論ヲ俟タス故ニ此一句ハ全ク無用ニ屬シ且之ナクハ其文モ淡泊ナルヘキニ依リ寧ロ之ヲ削ルヲ可トス

○議長 二十番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクンハ本案ノ決ヲ取ン之ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ郡區長戸長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前

ノ例ニ同シ

○十四番 渡邊清 本條ノ文章ハ敢テ不分明ナルニモ非サレトモ一層之

ヲ明瞭ニスルカ爲メ爰ニ修正説ヲ提出スヘシ原來本條ノ精神ハ請願人ヲシテ各自署名捺印シ住所戸長ノ奥印ヲ受ケシメ而シテ請願ニ由リ一人ニテ爲スト數人ニテ爲スト總代又ハ發起人アル時トノ類別アルヲ以テ本條ハ「族籍住所ヲ記シ及戸長ノ奥印云々」等ノ文字自ラ重複ニ至リタルナルヘキモ他ニ此錯雜ヲ避ル書法ナキニ非ス即チ本條ヲ修正シテ「請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ」ノ下其數人連名スル者ハ各人自ラ署名捺印シ若シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシト爲スヲ可トス此ノ如ク前後ノ文ヲ倒

置シ且族籍住所等ノ重複ヲ避テ之ヲ記スル時ハ一讀直チニ分明ナルヘケレハナリ

○議長 十四番ノ修正說ハ一應書記官ニ朗讀ヲ命スヘケレハ各位之ヲ清聽セヨ

書記官 森山茂 左ノ修正文ヲ朗讀ス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ其數人連名スル者ハ各人自ラ署名捺印シ若シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ

○十九番 鍋島直彬 賛成

○議長 十四番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十四番 渡邊清 本官ノ修正說中其數人連名トアルハ第六條即チ舊

第七條ニ其連名云々ヲ數人連名ト爲シタルニ倣フテナリ前說中遺脱アリタルヲ以テ今之ヲ辨スルコト爾リ

○六番 箕作麟祥 目下ノ修正說ハ修正委員ノ修正ヲ不可トスルニ非ス内閣下付原案ヲ不可トスルニ在レトモ一應本官ノ意見ヲ辨セサルヲ

得ス今書記官ノ該修正文ヲ朗讀スルヲ聽ク既ニ二次ナルモ本官ハ未タ判然其文ヲ解セス只其修正ハ云々シ云々シト縷々繼續シテ終始段落ナク却テ原案ノ前段云々奥印ヲ受クヘシ迄ハ當然ノ場合中段其連名云々以下族籍住所ヲ記シ迄ハ特例末段其總代又ハ請願發起人アルトキ云々以下ハ又其特例ニシテ正ヨリ變ニ移リ變ヨリ又變ニ移ルヲ區分シタルノ明瞭ナルニ如カサルカ如シ且末段戸長ノ奥印云々以下ノ一句ナキモ敢テ解シ難キニ非サレトモ總代又

ハ請願發起人アル場合ニ於テモ亦其奥印ノ入用ナルヲ明カニシタルニ在レハ是レ亦無用ナルニ非サルナリ即チ本官ハ十四番ノ修正文ハ未タ詳カニ聽得サルモ其修正文ハ解シ難クシテ却テ本案ノ明瞭ナルニ如カスト思考スルナリ

○外一番水本 成美 十四番ノ修正説ニ對シテハ特ニ論辨ヲ費ヤサルモ其不妥ナルハ目下六番ノ説ニ盡キタリト考フレトモ爰ニ一言セシ

十四番ノ修正文ハ云々署名捺印シ其數人連名スル者ハ各人自ラ署名捺印シ若シ其總代云々其由ヲ肩書シ族籍住所ヲ記シ云々ト即チ族籍住所ヲ記シナル一句ハ總代云々ノ下ニ一掲スルニ止ルカ如シ果シテ此ノ如クナレハ十四番ハ此一句ヲ以テ上ヲ貫クノ意ナルハケレトモ本員等之ヲ通讀スルニ止タ總代又ハ請願發起人ノミ族

籍住所ヲ記スル者ニ似テ稍ヤ穩カナラス原來本員等ハ原案ノ主義ヲ破ラス惟其文ヲ明カニスル修正ナランニハ如何ニ決スルモ固ヨリ異議ナク好修正ハ却テ望ム所ナレトモ現問題ハ分明ヲ缺キ原案ノ正ヨリ變ニ入り變中又變アルヲ明記シタルニ如カサルナリ原案

○ニ可決セラレンコトヲ希望ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ十四番ノ修正説ニ同意者ハ起

立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ十四番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクシハ

本案ノ決ヲ取シ之ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第五條 府縣郡區總代ノ名ヲ以テシ又ハ成法ニ制定セラレタル會

社ヲ除ク外結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス

○議長 ハ此限ニ在ラス 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第七條 請願書ヲ上呈セント欲スル者ハ必ス本人自カラ之ヲ爲ス

六 數人 代人ヲ以テスルヲ許サス
ハシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ請願人中ニ於テ總代人ヲ撰ヒ之

三名以下ノニ委托スヘシ其連名十人ヲ越ユル者ト雖モ總代人ノ數五名ヲ越

ユルヲ許サス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第八條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第六條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ

添フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

○議長 書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直

チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

○十四番渡邊清 本官ハ屢動議ヲ發スルニ似タレトモ復タ茲ニ一修正

ヲ提出セサルヘカラス前條皆「主務卿」ト云ヒ「各省卿」トアルニ本條

ニ限り「各省」ト云々主務省トアルハ妥當ナラス且「郵達ヲ得タル各

省」トハ郵達ヲ得タル何レノ省モト云ヘル意ナルヘキモ是レ少シク

解シ難キニ依リ本條ヲ修正シテ「郵達ヲ得タル省卿云々主務卿ニ移
シ云々」ト爲スヲ可トス

○議長 十四番ノ修正說ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○二十番三浦安 原來本條ノ意ハ請願人ニハ關係ノ極メテ少ナル者ニ

シテ縦ヘハ郵便ヲ以テ請願書ヲ大藏省ニ寄セタルニ該省ハ其主務

省ニ非サルニ依リ之ヲ其主務タル他省ニ回付スルハ通常ノ手續ニ

シテ他日請願人出府シテ後始メテ之ヲ知ルモ亦敢テ妨ケナキナリ

○必竟本條ハ請願書取扱ノ手續ヲ示ス者ナレハ寧ロ之ヲ削除スヘシ

○五番鍋島幹 賛成

○議長 二十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十三番本田親雄 二十番ニ問フ本條ハ請願人ニ關係少ナクシテ專ラ請

願書取扱手續ニ屬スルヲ以テ之ヲ削ルヘシトノ説ナルニ於テハ次條ハ全ク太政官ノ處分上ノ事ヲ示シタルニ過キサレハ本修正説ニ可決シタル以上ハ同條ヲモ削除スルノ意乎

○二十番 三浦安 第十條ニ至テハ自ラ亦別説アルヲ以テ今止タ本條ノミ削除セント欲スルナリ

○十四番 渡邊清 本條ハ主務省ノ手續ノミナラス請願人ニ便利ヲ與ヘタル法ニテ極メテ要用ナリトス既ニ府縣官ト雖モ各省卿職務内ノ事ヲ誤認スルコト往々是アリ況ヤ今般新タニ特別ノ權ヲ一般ニ許與スルニ在レハ續々數種ノ請願ヲ提出スル者アルヘキニ依リ主務省ヲ誤認スルカ如キモ亦恐ラクハ免レサルヘシ今若シ之ヲ削レハ此ノ場合ニ在テハ毎ニ其請願書ヲシテ本人ニ返付スルヤノ恐レアリ

リ迺チ之ヲ存スルヲ可トス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン二十番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ二十番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ本案ノ決ヲ取ン之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

○十九番 鍋島直彬 本條ノ主旨ハ可ナリ文字モ亦強テ改メサルモ可ナレトモ「裁可スル」トハ現在文字ナレハ裁可シタルト改作スルヲ優レリトス是レ蓋シ本條ノ眞意ナルニ由テナリ

○十四番 清渡邊 本修正ハ吾心ヲ得タル者ナルヲ以テ之ニ同意ス

○十八番 東久世通禧 賛成

○議長 十九番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十五番 渡邊洪基 些々タルコトナレハ強テ論スルヲ要セサレトモ爰

ニ一言セシテ說ノ如ク裁可スル時トハ現在文字ナルモ過去ヲ帶ヒタリ又裁可シタル時トハ裁可シタルノ後ニ適セリ而シテ本條ノ意ハ裁可ノ途端ト云フニ在ルヲ以テ本官ハ本案ニテ不可ナシトス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取シ十九番ノ修正說ニ同意者ハ起

立スヘシ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ十九番ノ修正說ハ消滅ス

○二十番 三浦安 本官第二條ニ就キ論辨シタル主義ヲ以テ本條中「太政

官」ヲ上。司。トシ「主務省」ヲ主務官署ト爲スヲ可トス是レ一等上ノ官署ヨリ一等下ノ官署ニ付シテ處分セシムルノ順序トナリテ獨リ太政官ノミ主務省ニ付スルノ理有ラサレハナリ前ニ秩序ヲ經テ請願セシメントスル修正ノ否決シタル以上責テ此ニ處分上ナリトモ秩序ヲ設ケサルヘカラス太政官ニ限り主務省ニ付シテ處分セシムルノ理ハ萬々之ナキナリ幸ニ賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ希望ス

○議長 二十番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○十四番 渡邊清 本條ノ末文ヲ「處分セシム」ニ止メテ「ヘシ」ノ二字ヲ削ルヲ可トス蓋シ「ヘシ」トハ多ク命令若クハ約束ノ文ニ用フルヲ常トス而シテ本條ハ命令ニ非ス又約束ニ非サレハ前條ノ末文「通知スヘシ」ト同一視スヘカラサルナリ

○議長 十四番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクハ本案ノ決ヲ取シ之ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ次案ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又

裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

○二十番 三浦安 本條中「又裁判所ニ訴フル云々」ノ一句ヲ刪ルヘシ蓋シ請願ト訴訟ト建白トハ各殊別アルヲ以テ裁判ニ屬スヘキ事件ヲ

請願スルヲ得ス又之ヲ爲スモ之ニ指令スルノ理ナシ然ラハ太政官ニ於テ此ノ如キ者ヲ受理セサルヤ分明ナリ此事ニシテ既ニ分明ナレハ其裁令ヲ經タル者ニ就キ裁判所ニ訴フヘカラサルハ固ヨリ分明ナレハ此「裁判所云々」ノ一句ハ宜シク之ヲ除クヘシ否ヲサレハ太政官ノ体面上亦不可ナル所アルヲ以テナリ

○十三番 本田親雄 賛成

○十四番 渡邊清 賛成

○議長 二十番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十九番 鍋島直彬

本官ハ問題ニ不同意ナリ此ノ如クセハ一旦太政官ノ

裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルヲ得サルハ讀テ字ノ如ク明白ニシ

テ復々疑ヒノ容ルヘキナキモ其請願ニ就キ大臣ヲ被告トシテ裁判

所ニ訴フルコトヲ得ルヤノ疑ヒナキヲ保テ難シ且此ノ如キ場合ニ

際セハ法ニ明文ナキヲ以テ判官モ亦或ハ惑フ所アルヘシ而シテ之

ヲ存セン乎爲メニ太政官ノ体面ヲ汚ス等ノ恐レハ萬々之ナク又敢

テ法文ノ体裁ヲ失スルニモアラサルナリ之ヲ存スルハ要用トス

○三十五番 渡邊洪基

「又裁判所ニ訴フル云々」ナル一句ノ要用ナル所以ヲ

一辨スヘシ原來本規則ハ戸長以上各行政官吏職務上ノ處分ニ就キ

不平ナル事ヲ請願シ得ルノ法案ナレハ之ヲ行政裁判ノ一部分ト云

フモ亦不可ナカルヘシ即チ爰ニ行政上戸長ノ奥印ヲ拒ミタル事ア

ランニ人民ニ在テハ請願ニ依テ之カ處分ヲ乞フト行政裁判ニ依テ

之カ處分ヲ乞フトノ二途アリ而シテ成ルヘク穩和ヲ欲シ且情實ノ

貫徹ヲ望ム者ノ如キハ則チ請願ニ依テ之ヲ訟フヘシ然ラハ終始其

精神ニ基キ太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ之ニ對シテ最早不平ヲ訴フ

ヘカラサルコトヲ明記セサルヘカラス否ラサレハ其裁令ヲ經タル

以上更ニ行政裁判ニ依テ訴フルニ至ルヘケレハナリ

○番 水本成美

二十番ヨリ「又裁判所云々」ナル字句ノ刪除説アリテ

問題トナリタレトモ目下三十五番陳述ノ如ク是レ頗ル入用ナル字

句ナリ且爰ニ郡區戸長等ノ職務上ニ關シテ訟フルハ行政裁判ト請

願トノ二途アルハ是レ亦三十五番ノ辨スルカ如シ而シテ行政裁判

ニ依テ訴フルモ太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ控訴上告ヲ許サ、ルノ

成規ナリ廻チ本條モ之ニ倣ヒ又以下ノ明文ヲ掲ケサルヘカラス若シ然ラスンハ一旦太政官ノ裁令ヲ經タル者ニ對シテハ最早請願ハ爲ス能ハサルモ更ニ行政裁判ニ訴フルハ法ノ禁セサル所ナリトシテ訴フル者アルヘケレハナリ因テ此一句ハ削除セサランコトヲ希望ス

○十四番 渡邊清

本官ハ又以下ノ一句ヲ削ラサレハ却テ請願ト行政裁判トノ區域ヲ混同センコトヲ恐レテ二十番ニ同意シタリ何トナレハ請願ハ所謂特別恩惠ヲ乞フ者ニシテ裁判ヲ與スノ權利ナキ者ニ屬セリ而シテ行政裁判ハ將來如何スルヤ得テ知ルヘカラサレトモ兎ニ角行政司法共ニ權利ノアル所ニ由テ訟フヘキ者ナレハナリ

○二十番 三浦安

番外一番及三十五番共ニ郡區長等ノ職務上ニ關シテ

訟フルハ請願ト行政裁判トノ二途アリ云々ト辨スレトモ本官ハ以爲ラク然ラス裁判ハ一方ニ權利ノ存スル者ニシテ恰モ目下十四番ノ辨スル如ク請願トハ自ラ其性質ヲ異ニス是レ必竟本案ノ設ケアル所以ナリト且其レ行政裁判ニ歸スヘキ者如何之ヲ考フルニ堂々タル成規ノ在ル有レハ郡區長ナリ府知事縣令ナリ之ニ背戾セハ之ニ依テ正ニ訴フルヲ得ヘシ而シテ又裁判ニ關スル者ヲ以テ請願スルニ於テハ有司モ之ヲ受ケサルヘシ然ルニ論者ノ言ノ如クンハ行政權ト裁判權ト相混交シテ遂ニ裁判ニ歸スヘキ者モ請願ニ依テ之ヲ陳ヘ又之ニ指令シ請願ニ屬スヘキ者モ裁判ニ依テ之ヲ訴ヘ又之ヲ判決スルカ如キ亂雜ヲ看ルノ日アルヘシ是レ本官ノ彼此同一ナラスト思考スル理由ニシテ又此一句ノ刪除說ヲ唱フル所以ナリ

○六番 笑作
購祥

現問題ノ發議者ハ前ニハ近時輕躁浮薄ノ論客世間ニ夥
キニ依リ名ヲ請願ニ假リ漫リニ政府ニ迫ル等ノ恐レアレハ之ヲ抑
制セサルヘカラストノ深切ナル意ヲ以テ屢論辨セラレ本官等モ感
情ヲ同ウセシニ此回ノ修正說ニ至リ恰モ其主旨ヲ一變セシカ如シ
請フ之ヲ辨セン抑請願ト行政裁判トハ素ヨリ同一ナラサレハ請願
ニ依テ順次上司ニ達シ遂ニ太政官ノ裁令ヲ經ルモ尚ホ自己ノ志望
ヲ果サ、ル時ハ夫ノ三大權ノ半解論者アリテ曰ク太政官ハ何物ソ
行政官ニ非スヤ然ラハ今回ハ之ヲ司法衙門ニ訴フ何ノ妨ケカ之ア
ラント更ニ裁判所ヘ訴フルニ至ルヤ必セリ故ニ此一句ヲ掲クルハ
第十三條ノ凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ云々請願スト雖モ受理セ
スト云ヘルト同精神ニシテ建白ニ屬スヘキ者ヲ請願トシ又請願ニ

屬スヘキ者ヲ建白トシテ出スカ如キハ其受理セラレサルハ當然ノ
理ナレトモ世間事理ヲ解スル者ノミ多カラサレハ此一句ナキニ於
テハ恐ラクハ向日那ノ國會願望者ノ其願書ヲ以テ四方ニ奔走シタ
ルカ如キ弊ヲ免レサルヘシ是レ本官ノ現問題發議者ハ前ニ深切ニ
シテ後ニ不深切ナリト考フル所以ナリ敢テ請フ今回モ亦猶ホ前ノ
旨趣ニ歸セラレンコトヲ

○二十番 三浦
安

六番ヨリ辨明且忠告ヲ得タレトモ本官ハ決シテ前後
其主義ヲ異ニシタルニ非サルナリ或ハ說ノ足ラサリシカ爲メ此ノ
如キ謬リヲ來シタル乎爰ニ本邦ニ在テハ太政官ハ無上ノ權力ヲ有
スル處ニシテ之ニ對立スル官衙ナキハ天下萬民ノ皆知ル所ナリ而
シテ建白ハ元老院ヘ爲スヘキノ法アレハ之ヲ示スハ不可ナキモ苟